

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	柳橋 七三子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者分析およびアパレル企画のプロセスを身につける						
授業の概要	<p>現在のファッションは多種多様化し、自分自身の価値観や感性に基づいてく自分らしさをうまく表現できる消費者が増えてきている。このような成熟化した消費者を満足させるためには、その消費者のニーズに対応したアパレル商品の企画、提案が必要となる。本講義では、消費者の様々な生活シーンやシーズン、テイスト等スタイリングの要素を知り、ファッション感性イメージの分類を理解した上で、自己の好みに偏らない客観的なアパレル企画の提案を行う。</p> <p>また、アパレル商品を消費者に購入してもらうためには、ただ単にアパレル商品を企画するだけでなく、その商品を魅力的にディスプレイしたり、販売しなければならない。これに関しては、状況により、学外見学で現場を実践的に学ぶ事も視野に入れる事とする。</p>						
到達目標	私達がちまたで目にするアパレル商品について、その商品のきかくの背景、意図、商品化までのプロセスが理解でき、自らアパレル商品の企画、提案ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 成熟した消費者と顧客満足 第3回 アパレル商品の種類と特徴 第4回 アパレル企業について 第5回 シーン、シーズン、テイストのスタイリング 第6回 ファッション感性イメージ分類について 第7回 ソフィスティケート&エレガンス 第8回 ロマンティック&カントリー 第9回 エスニック&アクティブ 第10回 マニッシュ&モダン 第11回 ターゲット分析とコンセプト設定 第12回 コーディネート企画 第13回 オリジナルのアパレル企画 第14回 オリジナルのアパレル企画 第15回 プレゼンテーションと講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：多くのファッション雑誌に目を通し、自己の好みやファッションの系統等を研究する。 授業後学習：理解出来なかった内容は、授業後及び次回に質問し、欠席したり授業内に出来なかった課題は各自進めて提出すること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	課題70% 授業態度30%						
履修上の注意	10回以上の出席が無いと受講資格を失います。 教科書は必ず購入すること。購入しない場合は受講資格を失います。 演習では各自、ファッション雑誌やその切り抜き、のり、はさみ等を持参してもらわないで忘れないこと。						
教科書	適宜資料を配布します。						
参考書	文化ファッション大系 ファッション流通講座⑦ コーディネートテクニク演出編 文化服装学院編						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル生産実習（被服実習）						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。						
授業の概要	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。そのために、アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。						
到達目標	セミタイトスカート（基本形）の設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（スカートの基礎知識、採寸） 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート（基本形）の実物大製図（自己サイズ） 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い 第6回 セミタイトスカートの補正 第7回 セミタイトスカートの裁断（表地の各パーツの裁断） 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ（へらorチャコペーパー） 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 実習内容の総括 第15回 レポート、スカートを着装して講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20%						
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失います。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れます。遅れている部分は、次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受け付けます。不明なままにしないこと。						
教科書	資料を配布する						
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編 文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル生産実習（被服実習）						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。						
授業の概要	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。そのために、アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。						
到達目標	人体の構造、計測方法を習得できる。 セミタイトスカート（基本形）の設計・縫製過程を理解できる。 スカートを完成させるまでの技術を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（スカートの基礎知識、採寸） 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート（基本形）の実物大製図（自己サイズ） 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い 第6回 セミタイトスカートの補正 第7回 セミタイトスカートの裁断（表地の各パーツの裁断） 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ（へらorチャコペーパー） 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 実習内容の総括 第15回 レポート、スカートを着装して講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習：欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20%						
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失います。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れます。遅れている部分は、次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受け付けます。不明なままにしないこと。						
教科書	資料を配布する						
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編 文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレルデザイン論						
担当教員	柳橋 七三子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	アパレルデザインに関する表現方法や素材、デザイン、色彩等の基本的な知識を身に付ける						
授業の概要	市場にあふれているアパレル商品の企画、設計にはアパレルデザインに関する基本的な知識が必要不可欠である。本講義ではまずデザインの基礎、定義を学んだ上で形、色、デザインの知識を身につけ、アパレルデザインに応用発展させる。このようにアパレルデザインを系統的に幅広い視点から学ぶ事によって、アパレル商品デザインについての理解を深める。						
到達目標	アパレル商品の機能性や審美性、表現方法を知り、適切な素材やデザイン、色彩の組み合わせによるアパレルデザインを理解出来る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 商品企画とアパレルデザイン 第3回 ファッションの変遷とその背景 第4回 衣服デザインの基礎 第5回 デザインの基礎 第6回 フォーム 第7回 カラー 第8回 テキスタイル 第9回 着装のデザイン 第10回 流行色の決まり方について 第11回 ファッションのトレンドについて 第12回 ファッションデザイン(オリジナル) 第13回 ファッションデザイン(オリジナル) 第14回 世界で活躍するファッションデザイナー 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：ファッションだけでなく様々なデザインに目をむける。 授業後学習：理解できなかった内容は授業後及び次回質問し、欠席したり授業内にできなかった課題は各自進めて提出すること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験50%、 課題30% 授業態度20%						
履修上の注意	10回以上の出席が無いと受講資格を失います。 教科書は必ず購入すること。購入しない場合は受講資格を失います。 演習では各自、ファッション雑誌やその切り抜き、のり、はさみ等を持参してもらうので忘れないこと。						
教科書	改訂 アパレルデザインの基礎 （日本衣料管理協会）						
参考書	授業内に紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	インテリア・コーディネート実習						
担当教員	山本 嘉寛					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	言葉の持つイメージをインテリア空間として構想し、それを他者に表現する手法の基礎を学ぶ。						
授業の概要	インテリアにまつわる基礎的な知識と、イメージを空間として実現するための手法を学ぶ。図面や空間表現の基礎的な技術を学び、作成したプレゼンテーションボードを用いて発表を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インテリアを構成する要素についての基礎的な知識を持つことができる。</li> <li>2. 漠然とした言葉のイメージから空間を構想することができる。</li> <li>3. 構想した空間を表現することができる。</li> <li>4. 表現した空間を他者に伝えることができる。</li> </ol>						
授業計画	第1回：授業のガイダンスとインテリアデザイン／インテリアコーディネートをめぐる概説 第2回：言葉から連想される空間の実例を集め、各自のテーマを決定する。 第3回：インテリア図面と空間表現の概説 第4回：仕上材（床／壁／天井）の概説とそのコーディネート 第5回：開口部（窓／扉）の概説とそのコーディネート 第6回：建材ショールームの見学 第7回：窓装飾の概説とそのコーディネート 第8回：家具の概説とそのコーディネート 第9回：プレゼンテーションボードの製作 第10回：給排水衛生設備の概説とそのコーディネート 第11回：照明器具の概説とそのコーディネート 第12回：プレゼンテーションボードとインテリア模型の製作 第13回：プレゼンテーションボードとインテリア模型の製作 第14回：製作した課題の発表 第15回：総評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	身の回りに存在する様々なインテリアに目を向けてみましょう（床、壁、天井、窓、扉、家具、照明・・・）。それらが何で出来ているか、どういった意図で選ばれているか考えてみましょう。						
授業方法	演習、講義						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションボード60%、平常点40%						
履修上の注意	授業の一環としてショールーム見学を行う（交通費実費負担） ハサミ、糊、ペン、色鉛筆、その他画材を各自用意する場合がある						
教科書	プリント配布						
参考書	図解テキスト インテリアデザイン 第1版 第5刷 井上書院 著者 小宮容一 片山勢津子 ベリー史子 加藤力 塚口眞佐子 西山紀子 ISBN 978-4-7530-1587-0 C3052						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	応用調理実習						
担当教員	浅野 恭代					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	調理を通して健康、食環境、食文化を学ぶ。						
授業の概要	食事献立の基本を学び、健康な食事献立が考えられる力を養う。日本料理、西洋料理、中華料理といった調理様式を理解し、それぞれの国の食文化の違いを理解する。調理とともに食べる環境を整え、テーブルセッティング、食卓作法の方法を学ぶ。						
到達目標	調理の基本技術（だしをとる、野菜を切る、魚をさばく等）を習得する。料理に合わせた食環境を整える力を習得する。健康な食事献立を考えるために、食品、調理法についての知識を学ぶ。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 調理の基本</p> <p>第3回 食事のバランス 食事バランスガイド（主食・主菜・副菜）</p> <p>第4回 日本型食生活 一汁三菜</p> <p>第5回 日本の行事食 端午の節句</p> <p>第6回 食事マナー、テーブルマナー</p> <p>第7回 西洋料理（1） 肉料理</p> <p>第8回 西洋料理（2） 魚料理</p> <p>第9回 西洋料理（3） アフタヌーンティ</p> <p>第10回 中華料理（1） 広東料理</p> <p>第11回 中華料理（2） 四川料理</p> <p>第12回 中華料理（3） 点心・烏龍茶</p> <p>第13回 色彩と食欲</p> <p>第14回 松花堂弁当</p> <p>第15回 実技テスト、まとめ</p> <p>第1回の授業で、実習費（10,000円）を徴収する。 行事により順序が変更する場合がある。変更の場合は事前に連絡する。 また、献立内容は種々の条件により変更することがある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前配布課題やレシピの学習 授業後学習：実習のまとめ、課題・考察の提出						
授業方法	実習（グループ調理）、講義、演習、試験						
評価基準と評価方法	実技テスト 40% 提出物 40% 実習態度（服装を含む学習態度、半での協力態度、調理法など指示通りにできたか問う）20% 提出期限等時間を守らない場合は、原点対象となる。						
履修上の注意	授業の初めに講義（実習の説明）があるので、遅刻しないこと。 実習の服装、爪など衛生管理をすること。 連絡先：y.asano@kio.ac.jp						
教科書							
参考書	「新版 フードコーディネーター論」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 「あすの健康と調理」三輪里子監修 アイ：ケイ・コーポレーション						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	香りの科学						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	香りのさまざまな心理学的効用の考察						
授業の概要	<p>においは人が生活していくうえで身の周りにあふれている。この授業では、香りの心理学的および生理学的メカニズムについて知ることを目的とする。香りの人間に対する作用のなかには、自律神経系、免疫系、認知機能に対する影響といったものが挙げられるが、それらに対する数々の効用について具体的に香りを用いた研究例をまじえ解説する。また、精油の種類や使い方、製法など精油の基本的な事項について、実際に香りを使いながら学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 嗅覚の仕組みに関する用語を理解し、それを用いて嗅覚の特徴を説明できる。</li> <li>2. 香りの心理学的効用を複数説明でき、生活の中で用いられる場面と関係づけて自分の考えを述べることができる。</li> <li>3. 実際に精油に触れ、それらの違いを識別でき、特徴を言葉で表現できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 香りを使用する目的</li> <li>3. 嗅覚の仕組み</li> <li>4. 香りの鎮静覚醒作用</li> <li>5. 香りとストレス</li> <li>6. 香りと睡眠</li> <li>7. 香りと疲労</li> <li>8. 精油の作用</li> <li>9. 精油の使い方</li> <li>10. 精油の種類</li> <li>11. 香りと免疫</li> <li>12. 香りと認知</li> <li>13. 香りと記憶</li> <li>14. 嗅覚の個人差</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次回の授業で取り上げる香りの効用について参考書などで予習する。（学習時間：90分）          授業後学習：授業で実際に嗅いだ香りを言語化することと、授業で取り上げた香りの効用を整理・確認する。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート(20%)、試験(80%)						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	<p>「〈香り〉はなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療」 NHK出版新書 ISBN: 978-4140883853          「アロマセラピーの教科書」 新星出版社 ISBN: 978-4405091658</p>						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	長尾 夏樹・福田 博也					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な家電情報機器の役割や仕組み						
授業の概要	<p>家庭で使用される機器は科学技術の発達により高度化されてきた。とくに最近では、一般家電機器にもコンピュータが導入され、より高度で便利な機械へと変化している。本講義ではこれら機器の一般的特質を理解すること、それらの購入・使用とそれにまつわるさまざまな問題、トラブル発生時に具体的・現実的な処理・対応のための基本的知識を修得することを目的とする。また、これからの生活に不可欠なコンピュータの扱い方なども詳しく解説・指導し、初級システムアドミニストレータの資格取得できるくらいのレベルになるような教育を行う。生活と技術との関係について、生産、家庭生活、教育の視点から考察する。家庭生活に関わる機器、情報通信技術と各種ソフトウェアに関する基礎的な知識を得る（知識・内容の理解）。家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェア、情報セキュリティ等について関心を持つ（関心・意欲）。情報通信技術と各種ソフトウェアに関する諸問題について、倫理的な見方や考え方を身につける（態度）。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアの仕組みがわかるようになる。</li> <li>・適切な製品を選択できるようになる。</li> <li>・機器を安全かつ有効に使用できるようになる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 食生活と機器（担当：福田）  第2回 衣生活と機器（担当：福田）  第3回 住生活と機器（担当：福田）  第4回 電気・機械の基礎知識（担当：福田）  第5回 家庭用のエネルギー（担当：福田）  第6回 技術と環境問題（担当：福田）  第7回 エネルギー変換、電池（担当：福田）  第8回 情報機器のしくみ・デジタルAV機器（担当：長尾）  第9回 情報機器のしくみ・家庭用パーソナルコンピュータ（担当：長尾）  第10回 情報ネットワークの仕組み（担当：長尾）  第11回 情報の収集、処理、分析、発信（担当：長尾）  第12回 通信ネットワーク、インターネットの現状と近未来（担当：長尾）  第13回 個人情報とプライバシー、情報セキュリティ（担当：長尾）  第14回 家庭の省エネルギー（担当：長尾）  第15回 1回~15回のまとめ（担当：長尾）  期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）							
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験 60%、提出物 20%、授業での発表など 20%						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	使用しません。適宜、資料を配布します。						
参考書	特になし						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	官能評価演習						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3~4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒトの五感（味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚）を用いて食品を評価する手法の種類と方法を修得する。食品の鮮度やおいしさの指標となる項目を学び、食品の鑑別方法を修得する。						
授業の概要	講義と演習（一部実験）を行い、食品のおいしさや品質について学ぶ。						
到達目標	食品企業などで行われる市場調査や嗜好調査に用いられる基本的な官能評価を実施することができる。代表的な食品の鮮度判定ができる。食品のおいしさや品質に大きな影響をおよぼす反応について理解する。						
授業計画	第1回 はじめに 食品の官能評価とは（講義） 第2回 官能評価の実施法（講義） 第3回 パネル選定のための味覚感度テスト 第4回 2点比較法 味噌汁の塩分濃度の識別 第5回 2点比較法 ココアの嗜好試験 第6回 3点識別試験法 チョコレートの識別 第7回 配偶法 紅茶の識別 順位法 スポーツドリンク嗜好の一致性 第8回 うまみの相乗効果 官能評価（ゲストスピーカー招へい予定） 第9回 評点法 クッキーの嗜好調査 調査のデザインから結果報告、提案まで 第10回 食品の品質と鑑別方法（講義） 第11回 りんごの酵素的褐変 第12回 アミノカルボニル反応 第13回 果実のおいしさ 糖度と酸度測定 第14回 卵の鮮度判定 第15回 まとめ レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業計画に記載された項目について、教科書で予習、復習する。						
授業方法	講義、演習、実験						
評価基準と評価方法	授業態度 30% レポート 70%						
履修上の注意	食品を扱うので衛生面には留意すること。 食品アレルギーのある学生は事前にその旨連絡してください。						
教科書	三訂食品の官能評価・鑑別演習 フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他 プリント配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養について科学的に理解し、乳児期から高齢期までの各ステージにおける栄養に応用できる。						
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。本講義ではまず、「栄養とは何か」、その意義について理解する。次いで、主に各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。具体的には、①栄養の概念、②5栄養素と消化・吸収・体内動態、③食品の機能性、④ライフステージと栄養、⑤生活習慣と健康などについて解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5大栄養素の消化・吸収、代謝の過程と、体内での役割が記述できるようになる。</li> <li>・主要なライフステージでの栄養の特徴が答えられるようになる。</li> <li>・食品の機能性について列挙できるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 健康と栄養：健康概念と栄養・食生活 第2回 食事と栄養物質(1)：炭水化物の栄養 第3回 食事と栄養物質(2)：脂質の栄養 第4回 食事と栄養物質(3)：タンパク質の栄養、小テスト 第5回 食事と栄養物質(4)：無機質の栄養 第6回 食事と栄養物質(5)：ビタミンの栄養 第7回 エネルギー代謝、小テスト 第8回 食事と健康(1)：食事摂取基準 第9回 食事と健康(2)：健康づくりのための政策、健康とダイエット 第10回 ライフステージと栄養(1)：胎児・妊娠・授乳期 第11回 ライフステージと栄養(2)：成長期・成人期・高齢期、小テスト 第12回 生活習慣病と栄養(1)：生活習慣病とは 第13回 生活習慣病と栄養(2)：生活習慣病と食事 第14回 免疫と栄養 第15回 期末テスト、病態時の栄養						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 授業後：配布プリントなどを使い学習内容を復習してノートにまとめる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	三訂 栄養と健康 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他適宜プリント配布						
参考書	特になし						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																																																	
科目名	基礎演習																																																	
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-																																												
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																																											
授業のテーマ	前期は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。 後期は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																																	
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 前期に引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるように、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。</li> <li>・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。</li> <li>・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。</li> <li>・各領域に対しての関心意欲をもつことができる。</li> <li>・2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。</li> </ul>																																																	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）</li> <li>9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論）</li> <li>10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える）</li> <li>11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成）</li> <li>12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表）</li> <li>13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索）</li> <li>14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー）</li> <li>15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括</li> <li>16. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表）</li> <li>17. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え）</li> <li>18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</li> </ol> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>奥井「生活経営入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長谷川「キャリア入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>花田「衣生活入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>青谷「マーケティング入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>川口「食生活入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</li> </ol>							奥井「生活経営入門」				長谷川「キャリア入門」				花田「衣生活入門」					UL①	UL②	UL③	18～21回	花田	奥井	長谷川	22～25回	長谷川	花田	奥井	26～29回	奥井	長谷川	花田	青谷「マーケティング入門」			川口「食生活入門」				UB①	UB②	18～23回	青谷	川口	24～29回	川口	青谷
奥井「生活経営入門」																																																		
長谷川「キャリア入門」																																																		
花田「衣生活入門」																																																		
	UL①	UL②	UL③																																															
18～21回	花田	奥井	長谷川																																															
22～25回	長谷川	花田	奥井																																															
26～29回	奥井	長谷川	花田																																															
青谷「マーケティング入門」																																																		
川口「食生活入門」																																																		
	UB①	UB②																																																
18～23回	青谷	川口																																																
24～29回	川口	青谷																																																

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。</li><li>・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。</li><li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li><li>・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある</li></ul>
教科書	授業毎にプリントを配付する。
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																																																	
科目名	基礎演習																																																	
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-																																												
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																																											
授業のテーマ	前期は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。 後期は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																																	
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 前期に引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。</li> <li>・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。</li> <li>・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。</li> <li>・各領域に対しての関心意欲をもつことができる。</li> <li>・2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。</li> </ul>																																																	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）</li> <li>9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論）</li> <li>10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える）</li> <li>11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成）</li> <li>12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表）</li> <li>13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索）</li> <li>14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー）</li> <li>15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括</li> <li>16. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表）</li> <li>17. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え）</li> <li>18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</li> </ol> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>奥井「生活経営入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長谷川「キャリア入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>花田「衣生活入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>青谷「マーケティング入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>川口「食生活入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</li> </ol>							奥井「生活経営入門」				長谷川「キャリア入門」				花田「衣生活入門」					UL①	UL②	UL③	18～21回	花田	奥井	長谷川	22～25回	長谷川	花田	奥井	26～29回	奥井	長谷川	花田	青谷「マーケティング入門」			川口「食生活入門」				UB①	UB②	18～23回	青谷	川口	24～29回	川口	青谷
奥井「生活経営入門」																																																		
長谷川「キャリア入門」																																																		
花田「衣生活入門」																																																		
	UL①	UL②	UL③																																															
18～21回	花田	奥井	長谷川																																															
22～25回	長谷川	花田	奥井																																															
26～29回	奥井	長谷川	花田																																															
青谷「マーケティング入門」																																																		
川口「食生活入門」																																																		
	UB①	UB②																																																
18～23回	青谷	川口																																																
24～29回	川口	青谷																																																

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。</li><li>・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。</li><li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li><li>・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある</li></ul>
教科書	授業毎にプリントを配付する。
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																																																	
科目名	基礎演習																																																	
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-																																												
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																																											
授業のテーマ	前期は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。 後期は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																																	
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 前期に引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。</li> <li>・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。</li> <li>・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。</li> <li>・各領域に対しての関心意欲をもつことができる。</li> <li>・2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。</li> </ul>																																																	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）</li> <li>9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論）</li> <li>10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える）</li> <li>11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成）</li> <li>12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表）</li> <li>13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索）</li> <li>14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー）</li> <li>15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括</li> <li>16. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表）</li> <li>17. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え）</li> <li>18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</li> </ol> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>奥井「生活経営入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長谷川「キャリア入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>花田「衣生活入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>青谷「マーケティング入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>川口「食生活入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</li> </ol>							奥井「生活経営入門」				長谷川「キャリア入門」				花田「衣生活入門」					UL①	UL②	UL③	18～21回	花田	奥井	長谷川	22～25回	長谷川	花田	奥井	26～29回	奥井	長谷川	花田	青谷「マーケティング入門」			川口「食生活入門」				UB①	UB②	18～23回	青谷	川口	24～29回	川口	青谷
奥井「生活経営入門」																																																		
長谷川「キャリア入門」																																																		
花田「衣生活入門」																																																		
	UL①	UL②	UL③																																															
18～21回	花田	奥井	長谷川																																															
22～25回	長谷川	花田	奥井																																															
26～29回	奥井	長谷川	花田																																															
青谷「マーケティング入門」																																																		
川口「食生活入門」																																																		
	UB①	UB②																																																
18～23回	青谷	川口																																																
24～29回	川口	青谷																																																

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。</li><li>・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。</li><li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li><li>・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある</li></ul>
教科書	授業毎にプリントを配付する。
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																																																	
科目名	基礎演習																																																	
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-																																												
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																																											
授業のテーマ	前期は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。 後期は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																																	
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 前期に引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。</li> <li>・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。</li> <li>・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。</li> <li>・各領域に対しての関心意欲をもつことができる。</li> <li>・2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。</li> </ul>																																																	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）</li> <li>9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論）</li> <li>10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える）</li> <li>11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成）</li> <li>12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表）</li> <li>13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索）</li> <li>14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー）</li> <li>15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括</li> <li>16. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表）</li> <li>17. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え）</li> <li>18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</li> </ol> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>奥井「生活経営入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長谷川「キャリア入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>花田「衣生活入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>青谷「マーケティング入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>川口「食生活入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</li> </ol>							奥井「生活経営入門」				長谷川「キャリア入門」				花田「衣生活入門」					UL①	UL②	UL③	18～21回	花田	奥井	長谷川	22～25回	長谷川	花田	奥井	26～29回	奥井	長谷川	花田	青谷「マーケティング入門」			川口「食生活入門」				UB①	UB②	18～23回	青谷	川口	24～29回	川口	青谷
奥井「生活経営入門」																																																		
長谷川「キャリア入門」																																																		
花田「衣生活入門」																																																		
	UL①	UL②	UL③																																															
18～21回	花田	奥井	長谷川																																															
22～25回	長谷川	花田	奥井																																															
26～29回	奥井	長谷川	花田																																															
青谷「マーケティング入門」																																																		
川口「食生活入門」																																																		
	UB①	UB②																																																
18～23回	青谷	川口																																																
24～29回	川口	青谷																																																

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。</li><li>・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。</li><li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li><li>・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある</li></ul>
教科書	授業毎にプリントを配付する。
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																																																	
科目名	基礎演習																																																	
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-																																												
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																																											
授業のテーマ	前期は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。 後期は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																																																	
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。 前期に引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																																																	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。</li> <li>・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。</li> <li>・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。</li> <li>・各領域に対しての関心意欲をもつことができる。</li> <li>・2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。</li> </ul>																																																	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>1. オリエンテーションとキャンパス探検</li> <li>2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画</li> <li>3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方</li> <li>4. 文献資料収集・整理の方法</li> <li>5. 資料の読み方</li> <li>6. 引用・参考文献の書き方</li> <li>7. レポートの構成</li> <li>8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体）</li> <li>9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論）</li> <li>10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える）</li> <li>11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成）</li> <li>12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表）</li> <li>13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索）</li> <li>14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー）</li> <li>15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括</li> <li>16. 夏休みの課題報告Ⅰ（夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表）</li> <li>17. クラス別課題探求（ローテーション講義へ向けた心構え）</li> <li>18～29：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</li> </ol> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>奥井「生活経営入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長谷川「キャリア入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>花田「衣生活入門」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>18～21回</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>22～25回</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>26～29回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ</p> <table border="0"> <tr> <td>青谷「マーケティング入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>川口「食生活入門」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>18～23回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> <tr> <td>24～29回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>30. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</li> </ol>							奥井「生活経営入門」				長谷川「キャリア入門」				花田「衣生活入門」					UL①	UL②	UL③	18～21回	花田	奥井	長谷川	22～25回	長谷川	花田	奥井	26～29回	奥井	長谷川	花田	青谷「マーケティング入門」			川口「食生活入門」				UB①	UB②	18～23回	青谷	川口	24～29回	川口	青谷
奥井「生活経営入門」																																																		
長谷川「キャリア入門」																																																		
花田「衣生活入門」																																																		
	UL①	UL②	UL③																																															
18～21回	花田	奥井	長谷川																																															
22～25回	長谷川	花田	奥井																																															
26～29回	奥井	長谷川	花田																																															
青谷「マーケティング入門」																																																		
川口「食生活入門」																																																		
	UB①	UB②																																																
18～23回	青谷	川口																																																
24～29回	川口	青谷																																																

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。</li><li>・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。</li><li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li><li>・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがあるので、入場料や交通費などの実費負担がある</li></ul>
教科書	授業毎にプリントを配付する。
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習Ⅰ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	心理学の基礎的な実験手法を説明できる。 エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。 データに基づいて考察を記述することができる。 図表を含めたレポートを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方、班分け</li> <li>2. レポートの書き方(1)－構成－</li> <li>3. レポートの書き方(2)－図表の作成－</li> <li>4. ミュラーリヤアの錯視(1)－解説－</li> <li>5. ミュラーリヤアの錯視(2)－実験の実施－</li> <li>6. ミュラーリヤアの錯視(3)－データの整理－</li> <li>7. 鏡映描写(1)－解説と実験－</li> <li>8. 鏡映描写(2)－データの整理－</li> <li>9. 自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験－</li> <li>10. 自由再生における系列位置効果(2)－データの整理－</li> <li>11. 要求水準(1)－解説と実験－</li> <li>12. 要求水準(2)－データの整理－</li> <li>13. 認知的葛藤(1)－解説と実験－</li> <li>14. 認知的葛藤(2)－データの整理－</li> <li>15. 講評</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習として参考書の該当実験のページに目をとしておく。（学習時間：90分） 授業後学習としてレポートの仕上げをする。（学習時間：90分）						
授業方法	実習形式でおこなう。 1つのテーマが終わったら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）、実験への取り組み20% レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにする。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを期限までに松蔭manabaに提出することが必須である。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習Ⅱ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、心理検査、イメージの測定、社会的態度尺度の作成法などの心理学の基礎的な検査や調査を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	心理学の基礎的な実験手法を説明できる。 エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。 データに基づいて考察を記述することができる。 図表を含めたレポートを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の進め方、班分け</li> <li>2. 状態不安尺度(STAI)の受検と整理、解釈</li> <li>3. YG性格検査(1)－解説－</li> <li>4. YG性格検査(2)－受検と評点－</li> <li>5. SD法によるイメージの測定(1)－解説と実験－</li> <li>6. SD法によるイメージの測定(2)－データの整理－</li> <li>7. SD法によるイメージの測定(3)－解析－</li> <li>8. 一対比較による好悪の尺度化(1)－解説と実験－</li> <li>9. 一対比較による好悪の尺度化(2)－データの整理－</li> <li>10. 一対比較による好悪の尺度化(3)－解析－</li> <li>11. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法(1)－解説と評定－</li> <li>12. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(1)－解説と評定－</li> <li>13. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(2)－整理と解釈－</li> <li>15. 講評</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習として参考書の該当実験のページに目をとおしておく。（学習時間：90分） 授業後学習としてレポートの仕上げをする。（学習時間：90分）						
授業方法	実習形式でおこなう。 次の実験までに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出するようにする。						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）、実験への取り組み20% レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。都合により欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにすること。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅰ（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象である、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化など夫婦関係のライフコース上の変化を捉えつつ、家族と地域社会ネットワークを考える。授業では、ライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から、現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齡化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。</li> <li>「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。</li> <li>・現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 人の一生と家族 第2回 青年期の自立と家族 第3回 家族の概念と定義 第4回 少子化とその原因分析 第5回 子どもの発達と親の役割 第6回 家族関係を分析する理論—役割理論— 第7回 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論—（ゲストスピーカー招聘予定） 第8回 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 第9回 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 第10回 高齡社会と家族 第11回 共生社会と福祉（高齡者福祉・児童福祉） 第12回 家族とグローバリゼーション 第13回 夫婦関係と法律 第14回 親子関係と法律 第15回 家族生活と社会・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業前に、各回の授業で扱うテーマの箇所を予習する。（学習時間各60分） 授業後学習：第1回目は、グループディスカッションした結果と官庁統計データをもとに、女性のライフコースについてのレポートを作成する。第2回目は、わがまちの人口変動（少子化）と子育て支援について、出身地や居住地の人口変動を調べ、子育て支援対策についてのレポートを作成する。（学習時間各300分）						
授業方法	講義 ディスカッション：女性のライフコースについての調査結果を用いてグループでディスカッションを行う。 レポート提出：松蔭マナバを利用して、レポートを提出する。 プレゼンテーション：レポートの内容を提出後発表し、意見交換をする。						
評価基準と評価方法	小レポート、授業外レポート2回、発表と期末試験（授業中の小レポート・授業外レポート2回60% 期末試験40%） レポートは、評価基準を定めたルーブリック評価を行う。評価はマナバ上でフィードバックする。 期末試験は、到達目標に示されたように、家族社会学の専門用語の理解及び、現代家族問題解決についての知識、技能、態度が確認できる設問を用意する。試験結果を解説とともに返還する。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。学外に出て、地域のデータを集めたり、フィールドワークをしその結果を報告することがある。それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	よくわかる現代家族【第2版】神原文子、杉井順子、竹田美知						
参考書	特になし						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活II（神戸論）						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちとその特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。 (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。 (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 神戸と開港 第3回 外国人居留地の歴史と現在 第4回 神戸の外国人とコミュニティー 第5回 神戸の近代建築 第6回 神戸の洋食〜外国料理 第7回 神戸の中国料理と南京町 第8回 神戸の洋菓子、パン 第9回 神戸の観光（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第10回 神戸の地勢、自然と公園 第11回 ファッション都市・神戸 第12回 神戸と阪神間モダニズム 第13回 阪神淡路大震災と神戸 第14回 メディアのなかの神戸 第15回 神戸流生活術						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること（1時間）。その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること（1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。毎回、レジュメや資料を配布します。講義についてのリアクションペーパーを書いてください。神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254 『神戸外国人居留地ージャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875211280						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活III（情報社会）						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	生活、仕事などの身近な問題をテーマに情報社会を社会的に捉えていく						
授業の概要	情報化社会とされる今日、我々は、日常生活における様々な問題を解決するために、情報を正確に捉える力や分析する力が求められている。また「情報」と「職業」の接点を考察することは、自身のキャリア形成を考える際や、就職活動に取り組むときに必要な視点となるといえる。この授業では、急速に発展する情報社会を社会的に捉え、仕事、生活をしていくうえで必要な情報の収集、発信の方法や、若者文化におけるSNSの危険性や情報モラルについて考えていく。						
到達目標	○情報社会の諸問題を社会的に捉える力を養う ○情報社会に潜むリスクについて理解し、適切な情報の収集、発信方法を習得する						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 情報社会の成立 第3回 情報社会の進展 第4回 インターネットの普及 第5回 情報化とプライバシー 第6回 若者文化と情報-若者にとって「つながる」とは何か- 第7回 若者とインターネット 第8回 ネットいじめ問題 第9回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の有効性 第10回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の危険性 第11回 情報モラルとは 第12回 情報社会と職業-情報化がもたらす仕事の変化- 第13回 大卒就職とインターネット 第14回 生涯学習社会とインターネット 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	情報社会に関するトピックスに日常から関心を持ち、理解を深めておくこと。						
授業方法	講義を中心に、必要に応じてディスカッションを行う						
評価基準と評価方法	課題試験 70% レポート 30%						
履修上の注意	3分の1以上の欠席は履修を認めない。						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅳ（共生社会）						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「共生」「多文化」「格差」をキーワードに社会的諸問題について考える						
授業の概要	本講義は、共生社会のあり方を理解することを目的とする。共生社会とは、男女、世代、地域、民族など、さまざまな生活習慣や文化を持つ集団に属する人々が、互いの違いを認め対等な関係を築く社会である。21世紀は、グローバル化が加速し、多様な資源が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に、人々が、共に尊重し合いながら、生活するためにはどのようなことが必要であるか考える。さらに、具体的な事例を通して、自らの価値観や行動を振り返ることで、共生社会を生きる生活者に必要な基礎的教養および態度を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「共生」「多文化」「格差」をめぐる諸問題について、自らの視点から考えを述べることができる。</li> <li>・これらの問題に対する専門用語について理解ができる。</li> <li>・各種学習活動について、積極的な姿勢で取り組むことができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態と個人発表日程決め） 第2回 あいさつと多文化 第3回 お祭り・労働から考える多文化 第4回 環境問題と多文化 第5回 都市化・過疎化と共生 第6回 都市化・過疎化に対する政策 第7回 動物との共生（伴侶動物としてのペット） 第8回 動物との共生（いのちとペット） 第9回 日本の文化を客観視する（ゲストスピーカーによる講演） 第10回 外国人との共生（過去と現状を中心に） 第11回 外国人との共生（未来への展望を中心に） 第12回 身近な家族との共生（パートナーを中心に） 第13回 子供との共生 第14回 万人との共生 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：個人発表レポートは、各自で責任をもって必ず発表すること。詳細は、第1回目の講義で案内する。 授業後：講義の資料は、毎回松蔭manabaで公開するので、適宜チェックすること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	個人発表レポート(30%)、終講課題(20%)、授業のワークシート記入及び受講態度などの平常点(50%)を総合的にみて評価する						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 ・参加型講義に抵抗がある履修者は受講をすすめない。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活V（都市文化）						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活、都市文化のなかのさまざまな「情報」の様相について学ぶ。						
授業の概要	この授業では、都市のなかの生活文化を扱う。現代のさまざまな情報文化は、都市という場で人間の社会生活と関わり合いながら、都市の生活文化となる。映画館や美術館、書店や喫茶店、マーケットや住宅、学校や交通機関といった都市の構成要素は、情報の発信装置であると同時に、日々の生活の一部でもある。そのような情報と生活の接する場としての都市に生成する「都市文化」の諸相を、家族、地域、消費、余暇、教育など、さまざまな生活の場面のなかに読み解きながら、情報化された現代の都市における生活文化を考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 都市情報のリテラシー（情報を見極め、良質な情報を使いこなすこと）を身につける。</li> <li>(2) 経済合理性と情報を軸にした過酷な消費社会のなか、「自分らしい」有意義な社会生活を送ることができる。</li> <li>(3) 都会のなかで自分のコミュニティを見つけ、創出することができる、高いコミュニケーション能力の獲得。</li> </ol>						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 家族の解体と消費社会 第3回 情報の中にある都会 第4回 都会、都市空間とメディアの変貌 第5回 都市情報と消費欲望 第6回 広告化される都市空間 第7回 ソーシャル・キャピタルについて 第8回 差異化と趣味、ライフスタイル 第9回 文化資本と階層 第10回 インターネットとメディア 第11回 都市生活とローカリズム 第12回 都市における職住隣接。「銭湯経済」「小商い」 第13回 都会のなかの拠点と居場所 第14回 都市生活とインターネット「保育園落ちた日本死ね」の衝撃 第15回 課題提出と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義前の準備：教科書や参考書を読むこと（1時間）。 講義後の復習：講義で触れたテーマについて、教科書、参考書を参照しながら、学んだこと考えたことを記述しておく（課題試論作成のため）。						
授業方法	教科書に基づいた講義を行い、その都度毎回リアクションペーパーを書くこと。 毎回、レジュメや資料を配布します。 試論（1200字程度/第15回までに書いて提出）のための課題を出します。						
評価基準と評価方法	試験は実施しません。課題（1200字程度の試論）40%、各回提出のリアクションペーパー40%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は単位を与えません。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	『街場のメディア論』 内田樹著、光文社新書 ISBN: 9784334035778 『寝ながら学べる構造主義』 内田樹、文春新書 ISBN: 4166602519 『差異と欲望』 石井洋二郎著、藤原書店 ISBN: 4938661829 『ソーシャル・キャピタル入門-孤立から絆へ』 稲葉陽二著、中公新書 ISBN-10: 412102138X 『「消費」をやめる-銭湯経済のすすめ』 平川克美著、ミシマ社、ISBN-10: 49303908533						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	知識 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 能力 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成（4）：プリテストと調査票の最終チェックを行う</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。（学習時間60分） また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。（学習時間120分）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。 授業集の課題についてはその都度翌週の授業で返還し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、仮説の作成、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標に従って評価する。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とする。社会調査に必要な資料やデータの収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子 2008、「社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子 2008、「社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2013、「入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版」法律文化社

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	知識 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 能力 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単準無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成（4）：プリテストと調査票の最終チェックを行う</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。（学習時間60分） また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。（学習時間120分）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。 授業集の課題についてはその都度翌週の授業で返還し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、仮説の作成、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標に従って評価する。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とする。社会調査に必要な資料やデータの収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子 2008、「社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子 2008、「社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2013、「入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第2版」法律文化社

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習II						
担当教員	松原 千恵					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析などの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、これら質的研究・質的調査の技法を学びながら、問題設定や仮説にもとつき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データを収集および分析していく方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～  ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。  既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～  ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析（1）～文字・活字データを分析しよう～  ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。  データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析（2）～文字・活字データを分析しよう～  ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析（3）～文字・活字データを分析しよう～  ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析（4）～文字・活字データを分析しよう～  ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析（1）～音声データを分析しよう～  ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析（2）～音声データを分析しよう～  ：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析（3）～音声データを分析しよう～  ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析（4）～音声データを分析しよう～  ：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析（1）～視覚的なデータを分析しよう～  ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソロジー（相互行為分析）などがある。  問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析（2）～視覚的なデータを分析しよう～  ：観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析（3）～視覚的なデータを分析しよう～  ：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析（4）～視覚的なデータを分析しよう～  ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション  ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。 また、授業時間内で完了しなかった作業については翌週までに完了させておく。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。						

履修上の注意	授業へ参加することが重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻2回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。課題の提出や、作業の進捗状況の確認や準備しておく作業等について連絡をとるため、授業冒頭で連絡先（メール）を提出させることがある。時間外での質問や相談は基本的にメールで受け付ける。 （ただし出席数や成績についての確認は直接授業の前後で行うこと。 また、授業に欠席した場合は各自、初回に説明した方法で配布資料や課題などを確認しておくこと。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著、2009、『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。 谷富夫・山本努編著、2010、『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。 轟亮・杉野勇編、2010、『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社。 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	松原 千恵					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析などの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、これら質的研究・質的調査の技法を学びながら、問題設定や仮説にもとつき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データを収集および分析していく方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～  ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。  既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～  ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析（1）～文字・活字データを分析しよう～  ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。  データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析（2）～文字・活字データを分析しよう～  ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析（3）～文字・活字データを分析しよう～  ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析（4）～文字・活字データを分析しよう～  ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析（1）～音声データを分析しよう～  ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析（2）～音声データを分析しよう～  ：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析（3）～音声データを分析しよう～  ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析（4）～音声データを分析しよう～  ：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析（1）～視覚的なデータを分析しよう～  ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。  問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析（2）～視覚的なデータを分析しよう～  ：観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析（3）～視覚的なデータを分析しよう～  ：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析（4）～視覚的なデータを分析しよう～  ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション  ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。 また、授業時間内で完了しなかった作業については翌週までに完了させておく。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	演習授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。						

履修上の注意	授業へ参加することが重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻2回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。課題の提出や、作業の進捗状況の確認や準備しておく作業等について連絡をとるため、授業冒頭で連絡先（メール）を提出させることがある。時間外での質問や相談は基本的にメールで受け付ける。 （ただし出席数や成績についての確認は直接授業の前後で行うこと。 また、授業に欠席した場合は各自、初回に説明した方法で配布資料や課題などを確認しておくこと。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著、2009、『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。 谷富夫・山本努編著、2010、『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。 轟亮・杉野勇編、2010、『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社。 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査論						
担当教員	佐々木 洋子				科目ナンバー		
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査が出来るようになるための基礎的事項を解説する。これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として、社会調査の意義、用途を解説する。さらに資料の収集、調査の設計から、現地調査の実施の方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを、量的・質的調査の双方について概説する。また社会調査の全過程における調査倫理について理解をはかる。						
授業の概要	社会調査の意義と諸類型に関する基礎的事項を解説する。国勢調査や官公庁統計、世論調査、マーケティングリサーチなどの実例を基に、社会調査が我々の社会でどのように行われ、またその結果がどのように活用されているのかということを理解する。次に、社会調査史を振り返り、これまでに行われてきた調査の目的や種類などを検討し、これまでに生じてきた方法論的問題や倫理的問題を紹介する。それを踏まえて最終的には、実際に調査を行う際のデータ収集方法から分析までの諸過程に関する基礎的な知識と技術を修得させる。						
到達目標	社会調査の基礎的な理論や技法を習得し、実際に社会調査ができる。また、公表された社会調査結果を読み解くことができる。						
授業計画	第1回 社会調査の意義と用途 第2回 社会調査の歴史 第3回 社会調査のうそ 第4回 問題意識の明確化 第5回 関連データ収集一定量データと定性データ 第6回 概念・指標・変数 第7回 仮説構成とモデルづくり 第8回 実査と調査倫理 第9回 調査の種類と実例Ⅰ 調査目的別（学術調査・マーケティング調査・官公庁統計・世論調査） 第10回 調査の種類と実例Ⅱ 調査時点別（クロスセクションサーベイ・継続調査・パネルサーベイ） 第11回 調査の種類と実例Ⅲ 調査地点別（地域調査・全国調査・国際比較調査） 第12回 量的調査と質的調査 第13回 統計調査と事例研究法 第14回 二次データの利用 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（詳細は授業菜時で指示）（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の復習および講義中に紹介する社会調査およびテレビ、新聞、インターネットなどで見かける社会調査について調べる。また、定期的に課題を課す（学習時間90分）						
授業方法	講義形式で行う。また、一部ペアワークやグループワークを行うことがある。						
評価基準と評価方法	授業内課題（30%）：毎回提出してもらうリアクションペーパーや、定期的に課す課題により評価する。 期末試験（70%）：授業で扱った内容の理解度について、到達目標の観点から評価する。 課題等に対するフィードバックの方法：授業内で解説する。						
履修上の注意	他の受講生に迷惑をかけること。						
教科書	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編, 2013『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房 9784623066544						
参考書	轟亮・杉野勇編, 2013『入門・社会調査法〔第2版〕——2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社 9784589034892 その他、随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品衛生学						
担当教員	武智 多与理					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	食品衛生の基礎						
授業の概要	食品の品質を損なうことの最大の原因が、微生物といっても過言ではない。安全性についていえば、食中毒病因物質の85%以上が細菌である。食品の安全性を確立するには、微生物の制御が大きな割合を占めていると言える。本講義では、前半、微生物について、後半、食品をめぐる環境及び安全性の確立について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物の特性を挙げることができる。</li> <li>・食品の腐敗・変敗の機構を述べることができる</li> <li>・代表的な食品の腐敗・変敗の防止法を説明できる。</li> <li>・食品をめぐる環境について列挙し説明できる。</li> <li>・食品の安全流通と安全管理の方法を挙げることができる。</li> <li>・フードスペシャリスト資格試験の過去問を解けるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 概論 食品衛生学とは 第2回 食品の腐敗・変敗とその防止① 第3回 食品の腐敗・変敗とその防止② 第4回 食中毒（微生物性①） 第5回 食中毒（微生物性②） 第6回 食中毒（自然毒） 第7回 食中毒（その他） 第8回 食品の安全性の確保 第9回 家庭における食品の安全保持 第10回 環境汚染と食品 第11回 器具および容器包装 第12回 小テスト3解説、水の衛生 第13回 食品の安全流通と表示 第14回 食品の安全流通と表示、食品の安全管理 第15回 まとめ、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。（学習時間：90分） 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。フードスペシャリスト資格試験の過去問を解く。（学習時間：90分）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	受講状況：10% 期末試験：50% 小テスト（複数回）：40%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 2/3以上の出席に満たないものは、受講資格を失う。 テストの日程は前後することがある。 教科書は必ず購入すること						
教科書	三訂 食品の安全性 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN：978-4-7679-0574-7 その他、適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学実験						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	各種加工食品を製造することにより、食品加工の原理を深く理解する。						
授業の概要	加工食品は私たちの食生活に不可欠なものであるが、本実験はその加工原理や貯蔵方法などを科学的に理解することを目的としている。						
到達目標	加工食品を実際に製造することにより、その加工原理および製造方法を述べることができるようになる。						
授業計画	第1回 諸説明 第2回 豆類の加工 みそ仕込み 第3回 乳類の加工 ヨーグルト 《実験1》ヨーグルトのpH測定 第4回 種実類の加工 ピーナツクリーム 第5回 菓子類の加工 キャラメル・バタースカッチ 《実験2》砂糖の加熱温度の違いによる変化 第6回 いも類の加工 こんにやく 第7回 穀類の加工 うどん 《実験3》グルテンの分離 第8回 乳類の加工 アイスクリーム まとめ1 レポート提出 第9回 乳類の加工 フレッシュチーズ 第10回 野菜類の加工 トマトケチャップ ピクルス 《実験4》可用性固形成分の測定 第11回 肉類の加工 ソーセージ 第12回 豆類の加工 豆腐 第13回 乳類の加工 バター 《実験5》製パン発酵条件の比較 第14回 果実類の加工・びん詰めの製造 りんごジャムびん詰め みそ官能評価 第15回 乳類の加工 乳酸飲料 まとめ2 レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：実習・課題レポートの準備 授業後：実習・課題レポートの作成・完成						
授業方法	実習、一部簡単な実験を含みます						
評価基準と評価方法	授業への取り組み30%、レポート70%						
履修上の注意	食品アレルギーのある学生は事前に連絡してください。対応します。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学総論						
担当教員	織田 小枝					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の科学的な性質を総合的に理解する。						
授業の概要	食品がいかに栄養豊富であっても、食べられなくては役に立たない。したがって、食べ物は「美味しさ」が重要な要素といえる。「美味しさ」は単に味だけの問題でなく、色や香り、そして触覚（手触り歯触り等）が重要な因子である。さらには食環境も含めて、脳が総合的に判断することである。本講では最初に食品の成分と特徴および「美味しさ」に関する因子とその重要性、次いで食べ物の原料である食品の二次機能、即ち色・味・香りについて主に化学的側面から論じる。そして触覚に関する物性についても述べる。						
到達目標	食品成分の科学的性質を理解し、食品の科学的な特徴が説明できる。						
授業計画	第1回 授業概要の説明、食品の機能と栄養 第2回 食品の成分と特徴：炭水化物 第3回 食品の成分と特徴：たんぱく質、脂質 第4回 食品の成分と特徴：ビタミン、ミネラル、水分 第5回 植物性食品①（穀類） 小テスト① 第6回 植物性食品②（いも類・豆類） 第7回 植物性食品③（野菜類・果物類・きのこ類） 第8回 動物性食品①（食肉類・魚介類）小テスト② 第9回 動物性食品②（乳類・卵類） 第10回 油脂、調味料、香辛料 小テスト③ 第11回 嗜好飲料、微生物利用食品 第12回 食品成分の反応と物性 食品の二次機能（色・味・香・テクスチャー） 第13回 人間と食品①（食文化と食生活と健康）小テスト④ 第14回 人間と食品②（食料と環境問題） 第15回 まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内容の予習および復習						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60%、課題・レポート40%として評価する。						
履修上の注意	日頃から食品に関心を持つこと。 授業内容に応じて試験の実施や課題・レポートを課すことがあるので、よく復習しておくこと。 出席回数が開講回数3分の2に満たないものには、原則単位認定を行わない。 授業中のマナーや配布資料等についての詳しい説明は、第1回目の授業時に行います。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	「オールガイド食品成分表2018」実教出版編集部編、実教出版、2018年、ISBN=978-4-407-34358-8						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品の流通論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	食料（食品）の生産・流通・消費までの流れを具体的かつ総合的に把握することを目的とする。（フードスペシャリスト試験科目）						
授業の概要	情報・技術の発達によりフードシステムが変化している。その要因は、所得の上昇や家族生活の変化、供給側の対応などが考えられる。 本講義では、食生活の外部化に依存している家族の食生活の変化を捉えながら、提供側である小売業・卸売業の実態と変化、さらに生鮮三品や米・小麦・加工食品など様々な食材や食品分野をケースに取り上げながら、その流通と消費実態を考察する。そして、フードマーケティングの視点から今日の食料（食品）問題と流通のシステムの変化について考えていく。						
到達目標	①生産現場の仕組みを理解し、特徴を説明することができる。 ②生産されたモノが消費者に渡るまでの流通プロセスを理解し、現代の流通の課題について自らの考えを述べることができる。 ③具体的な事例をもとに、流通の仕組みについて批判的に捉える事が出来る。 ④食育や環境問題についての実践的な行動を目指すことができる。						
授業計画	第1回目 食市場の変化—消費者の変化と食生活— 第2回目 食品流通の役割と社会的使命 第3回目 食品流通と食品市場① —食品小売業とスーパーマーケット— 第4回目 食品流通と食品市場② —外食産業とコンビニエンスストア— 第5回目 PBとNBとは何か 第6回目 食品流通と食品市場③ —卸売市場— 第7回目 食品流通と食品市場④ —食品卸売市場— 第8回目 食品流通と食品市場⑤ —生協の共同購入— 第9回目 主要食品の流通—生鮮三品— 第10回目 主要食品の流通—米・小麦・乳飲料・大豆の流通—（ゲスト・スピーカーの予定） 第11回目 主要食品の流通—漬物・惣菜・食用油脂・菓子の流通— 第12回目 加工食品の流通と消費①（学外実習） 第13回目 清涼飲料・輸入食品の流通と消費②（学外実習） 第14回目 フードマーケティングと食料消費の課題 第15回目 消費スタイルと流通技術・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	① スーパーや百貨店をはじめコンビニなどがどのような食品を扱い、管理しているのか現場を観察しながら現状を理解する。 ② 新聞を必ず読むこと（特に食品問題）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験50%、レポート（2回）30%、発表20%						
履修上の注意	①新聞必読 ②10回以上の出席がないと、受講資格はありません。 ③現場視察のため学外実習を行うこともある。入場料・交通費などの実費負担がある。						
教科書	日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の消費と流通』建帛社、2016年。						
参考書	石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、その他授業中に随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	色彩学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。						
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に着ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。						
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる。 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる。 色と光の関係について科学的に説明することができる、 生活と色に関する諸問題について考察することができる。						
授業計画	第1回：色の性質、色と心理 第2回：色を表し、伝える方法（色の表示方法とその特徴） 第3回：カラーオーダーシステム（マンセルシステム） 第4回：カラーオーダーシステム（CCIC） 第5回：カラーオーダーシステム（NCS、PCCS） 第6回：色彩調和の考え方 第7回：これまでのまとめと中間試験配色 第8回：配色と色彩調和 第9回：光から生まれる色 第10回：色が見える仕組み 第11回：色の測定 第12回：混色と色再現 第13回：まとめと期末試験 第14回：学外研修事前学習 第15回 学外研修、確認テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（60分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（60分）						
授業方法	講義、一部演習を含む。学外研修（神戸ファッション美術館※予定）						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、課題）40%、試験60% 試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修の交通費と入館料は自己負担。実施時期は土曜日または補講期間の予定。 2. 教科書、配色カード、のり、はさみ、その他指示されたものを持参すること。 3. 配色カードは試験にも使用するので、各自必ず準備すること。						
教科書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所（中央経済社）ISBN:978-4502445804 「新配色カード199a」日本色研事業株式会社						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学I（衣）						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活学入門						
授業の概要	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目指す。具体的に扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服と社会とを関係づけることができる。</li> <li>・被服のなりたちについて説明することができる。</li> <li>・被服と人の心身とを関係づけることができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 人と被服との関わりについて考える 第2回 被服の起源 第3回 被服の歴史と文化 和服の歴史 第4回 被服の歴史と文化 洋服の時代へ 第5回 被服の未来 機能性とデザイン 第6回 民族と衣生活 第7回 レポート課題とmanaba小テスト 第8回 自然環境と被服 第9回 ライフスタイルと被服 衣生活の現状 第10回 ライフスタイルと被服 TPOとフォーマルウェア 第11回 ライフスタイルと被服 ライフサイクルから見た衣服設計 第12回 衣服の取扱いと表示 第13回 被服の廃棄とリサイクル 第14回 まとめ 期末試験 第15回 試験の復習と最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと（30分） 授業後学習：復習と課題（90分）						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点 40%、試験とレポート課題 60%						
履修上の注意	出席を重視する						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣生活学』佐々井 啓・大塚美智子 編著（朝倉書店）ISBN 978-4-254-60633-1						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学II（食）						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。						
授業の概要	『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、2年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、食品の持つ「食生活と栄養（5大栄養素とその他の成分）」について、化学的・生化学的視点から概説する。次に、「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と安全」、「食生活と環境」などについて解説する。健康とは何か、そして、健康な生活を送るために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目的とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養についての問題に回答できるようになる。</li> <li>・食生活、調理、食文化についての問題に回答できるようになる。</li> <li>・食生活と健康についての問題に回答できるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 人の一生と食事 第2回 食生活と栄養（糖質・脂質） 第3回 食生活と栄養（タンパク質・ビタミン） 第4回 食生活と栄養（ミネラル・水） 第5回 食生活と食品の成分（アルコール、嗜好品、免疫力） 第6回 食生活と調理 第7回 食生活と食文化（米文化と小麦文化） 第8回 食生活と食文化（食事様式、マナー、旬） 第9回 ライフサイクルと食生活（成長期） 第10回 ライフサイクルと食生活（成人期以降） 第11回 体のリズムと食生活 第12回 食生活と安全 第13回 食生活と環境 第14回 食育の意義 第15回 家庭や地域における食育の推進、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 授業後：配布プリントなどを使い学習内容を復習してノートにまとめる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業における発表など10%、課題40%、期末テスト50%						
履修上の注意	内容が多岐に渡りますので授業後の自主学習が必須です。積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	大学で学ぶ食生活と健康のきほん 吉澤みな子・武智多与理・百木和 著 化学同人 適宜プリントを配布						
参考書	特になし						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学III（住）						
担当教員	平田 陽子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	住居に関する基礎的知識の修得と現代の住まいに関する課題の理解						
授業の概要	私たちが毎日暮らしている住居に関する入門科目として、住居の基本概要、および現代の住まいに関する重要事項である高齢者居住、子どもの生活空間、住まいの再生、超高層住宅などを理解する。						
到達目標	日本の住まいの特徴、住居の歴史、住居の間取り、現代の課題などの基礎項目について、自分の言葉で語れるようになること						
授業計画	第1回 オリエンテーション、すまいの色々 第2回 日本の住まいの特徴 第3回 住居の歴史（古代～中世まで） 第4回 住居の歴史（近世） 第5回 住居の歴史（近代） 第6回 間取りの特徴 第7回 間取りの制作（自宅の間取り図作成）＋小テスト1 第8回 高齢者の生活空間 第9回 子どもの生活空間 第10回 戸建て住宅の問題 第11回 集合住宅の問題 第12回 高層居住の問題 第13回 公的賃貸住宅の再生 第14回 マンションの大規模修繕と再生 第15回 学生からの自宅再生提案＋小テスト2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で使ったプリント類を復習したり、予め予習するなど積極的に取り組んでほしい。日頃から新聞やテレビで取り扱われる住宅の情報や、街を歩く際には街並みなどにも関心をもって欲しい。						
授業方法	プリントを配布し、パワーポイントを用いた講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（30%）、小テスト（20%×2回）、レポート（30%）						
履修上の注意	授業には遅刻や欠席をしないで取り組んでほしい。欠席回数が多い場合には、単位を出さない場合がある。						
教科書	特になし						
参考書	・湯川聡子・井上洋子著、「住居学入門」、学芸出版社、ISBN4-7615-2237-2						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学Ⅳ（ヒト）						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達段階をととしたヒトの身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。						
授業の概要	発達段階をととした人間の身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。人間の発生時における遺伝によって子供へ受け継がれる形質、出生後の脳や感覚器官の発達、認知機能の心理生理的発達と脳の変化、社会性の心理的発達、成人し結婚する際の心理的課題、自らが親になる際の母性や父性の出現と役割、のように発達段階をととして獲得していく生理的変化、身体の構造や心理社会的スキルを知る。常に成長する人間を生物として考える目を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの遺伝、脳のはたらき、発達に関する基本的な用語の説明をすることができる。</li> <li>2. 発達段階における心理社会的スキルを行動面と機能面から解説することができる。</li> <li>3. 遺伝、結婚、発達における行動の事例を挙げ、それについて自分の考えを述べるることができる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の紹介</li> <li>2. 遺伝と両親</li> <li>3. 遺伝と行動</li> <li>4. 遺伝と環境</li> <li>5. 脳の発達</li> <li>6. 感覚の発達</li> <li>7. 感情の発達</li> <li>8. 脳の発達とストレス</li> <li>9. 性差</li> <li>10. 共感</li> <li>11. 意欲</li> <li>12. 幸福感</li> <li>13. 幸福感と結婚</li> <li>14. 母性・父性</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次回講義のテーマに関して自分の身の回りにある疑問を言語化する。（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容を整理・確認する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義形式で授業を実施する。教室内でできる簡単な実験や演習も含まれる。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)、試験(70%) 小レポートは評価後返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	3分の2以上の出席が必須である。授業中、私語、電子機器の操作を禁止する。						
教科書	プリントを適宜用いる。						
参考書	「幸せを科学する」 新曜社、ISBN：978-4-7885-1154-5 「ミラーニューロン」 紀伊国屋書店、ISBN:978-4-314-01055-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活学概論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生活について総合的に学ぶ						
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している</li> <li>個人のライフコースにおける諸課題が説明できる</li> <li>現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策を考え提示することができる</li> </ul>						
授業計画	第1回 生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第2回 生活学・家政学の成立と変遷 第3回 戦後の生活変化と家族形態の変遷 第4回 生活と家族をめぐる社会的課題（人口動態、各種統計から） 第5回 生活と家族をめぐる身近な課題（生活・家族をめぐる具体的事例から） 第6回 ジェンダーとセクシャリティ 第7回 恋愛とパートナー選択 第8回 生活と生活自立 第9回 ライフイベントとライフプランニング 第10回 生活時間と女性の就業 第11回 消費生活と家計 第12回 情報社会と消費生活 第13回 加齢と高齢期の生活 第14回 死別と悲嘆 第15回 生活学の将来展望と試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：自分の身近な生活環境について普段から関心をもつこと。 授業後：授業で学んだ内容を復習する手書きのノートを作成すること。その際に理解不足の点を補いながらまとめるように心がけること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(60%)、ワークシート記入状況(40%)などにより総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	家政学の時間編集委員会. 『楽しもう家政学-あなたの生活に寄り添う身近な学問-』. 2017. 開隆堂. (ISBN: 978-4304021497)						
参考書	日本家政学会家政教育部会編. 家族生活の支援-理論と実践-. 2014. 建帛社. (ISBN: 978-4-7679-6518-5). 各自高等学校で使用していた家庭科の教科書(及び資料集).						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動Ⅰ（衣行動）						
担当教員	牛田 好美					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。						
授業の概要	人が被服を着用する目的には、身体保護や体温調節など、身体内部の生理的平衡状態を保ち、生命維持や健康増進をめざすことがあります。それに加えて、社会的、心理的な目的もあります。すなわち、被服によって自己を確認したり、変身願望を充足させたり、外見的魅力を高めたり、周囲へ同調したり、性的なアピールをしたりします。この授業では、こうした社会的・心理的効果をもつ被服行動について学習し、被服行動と人間のさまざまな関わりについて考える力を養います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の社会的・心理的機能を理解することができる。</li> <li>・日常生活をより良くするために、被服の社会的・心理的効果を考え、被服に関する行動を行うことができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 被服への社会心理学的アプローチ 第2回 被服と自己意識（1）ボディ・イメージとは 第3回 被服と自己意識（2）社会で形成されるボディ・イメージ 第4回 被服と対人認知（1）印象形成 第5回 被服と対人認知（2）自己管理、自己呈示、役割理論 第6回 被服と非言語的コミュニケーション 第7回 被服と対人行動 第8回 被服と集団行動 第9回 被服とジェンダー 第10回 流行の普及と採用 第11回 個人発表（1） 第12回 個人発表（2） 第13回 個人発表（3） 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から、新聞や雑誌などをよみ、社会情勢に敏感になっておいてください。						
授業方法	主に、講義形式でおこないますが、テーマに沿った個人発表もおこないます。必要に応じて資料を配布します。						
評価基準と評価方法	授業参加度（30%）、授業中の発表（20%）、レポート（20%）、試験（30%）により総合的に評価します。						
履修上の注意	座席を指定します。						
教科書	21世紀の社会心理学シリーズ8 高木修（監修） 被服行動の社会心理学 神山進（編）北大路書房						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動II（食行動）						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	食行動の心理学						
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動である。この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論する。母乳の心理的意味、食の嗜好や嫌悪の発達、集団における食行動の変容、食環境の心身に対する影響、食にまつわる行動異常などについて論じる。生涯にわたる自分自身や家族の健康を食の観点から考え、実践できる方法を身につける。						
到達目標	1. 各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を列挙し、説明することができる。 2. 個人や社会における食問題についてまとめ、自分の考えを述べるすることができる。						
授業計画	1. 授業の概要 2. 離乳期までの食行動(1)－母乳とミルク－ 3. 離乳期までの食行動(2)－母乳の育てる仕組み－ 4. 離乳期までの食行動(3)－母乳の心理的側面－ 5. 幼児期の食行動(1)－味覚の発達－ 6. 幼児期の食行動(2)－食物嗜好と拒否の発達－ 7. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(1)－テーマ設定－ 8. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(2)－アイデア出し－ 9. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(3)－発表－ 10. 児童期の食行動(1)－特徴と問題点－ 11. 児童期の食行動(2)－食行動と身体の状態－ 12. 児童期の食行動(3)－食卓の絵からの考察－ 13. 青年期の食行動(1)－思春期の食に関わる心と体の病気－ 14. 青年期の食行動(2)－摂食障害－ 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次回の授業の内容に関する疑問を言語化する。（学習時間：90分） 授業後学習：授業でとりあげた内容を確認し、そのことを実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。（学習時間：90分）						
授業方法	主に講義形式。演習も実施する。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)：演習において提出されたレポートを評価したものを後日返却しフィードバックする。 試験(70%)：授業でとりあげた、各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を確認し、自分の考えを述べる ことができるかについて評価する。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。電子機器の操作を禁止する。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「人間行動学講座2 たべる－食行動の心理学－」 中島義明、今田純雄編 朝倉書店 1996 4800円 「母乳」 山本高治郎著 岩波新書 1983 490円 「未熟児」 山内逸郎著 岩波新書 1992 580円 「子どもと家族とまわりの世界(上)赤ちゃんはなぜなくの」 D・W・ウィニコット著 星和書店1985 1400円 「知っていますか 子どもたちの食卓－食生活からからだの心が見える－」 足立己幸 NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト 日本放送出版協会 2000 1500円						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動III（住行動）						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の「生活」と「住行動」の関わりについて考える						
授業の概要	本講義は、人間にとって最も身近な生活環境である「住まい」を中心に扱う。住まいと人間との関わりから、人間行動とそれに伴う心理状態の変化などの具体例を紹介する。また、都市で発生する諸問題（騒音、日照権、ゴミ問題等）、高齢者や障がい者との共生のための住まいのあり方などを取り上げ、家族、地域、世代等に着眼し、人間関係や諸環境間の関連について、批判的に考察する基礎的能力を養う。さらに、本講義で学んだ内容を、自らの生活環境を改善する実践へと発展させるような展開を図る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な住環境を批判的に考察し、改善案について間取り図を作成することができる</li> <li>・身近な住環境に潜む問題に気づき住行動からの改善を図ることができる</li> <li>・現在の自分、これからの自分を見据えた住まい方のプランについて述べるることができる</li> </ul>						
授業計画	第1回 講義形態の確認、住まいに関する関心度アンケート 第2回 身近な住まいへの着眼 第3回 身近な住まいに関するグループワーク（発表含む） 第4回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしに必要な情報） 第5回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしの人生設計と住まい） 第6回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・学童期） 第7回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・青年期） 第8回 家族のライフステージと住まい（高齢期の住まい・高齢（単身）世帯） 第9回 家族のライフステージと住まい（多世代同居と住まい） 第10回 共生社会と住まい（ペットと住まい） 第11回 共生社会と住まい（バリアフリー、ユニバーサルデザイン） 第12回 共生社会と住まい（持続可能な社会と住まい） 第13回 共生社会と住まい（多文化共生と住まい）※ゲストスピーカー 第14回 共生社会と住まい（多様な家族形態と住まい） 第15回 住行動に関する終講課題及び講義総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：講義計画に記したキーワードについて自分なりに予習する。 授業後：講義内容について、疑問点を整理し自ら調べる。残った疑問点については次回に質問する。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	終講課題(60%)、授業の参加態度・ワークシート記入状況(40%)などを含め総合的に評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業内容に応じて資料を配布する。						
参考書	住まい15章研究会、「住まい15章 改訂版」、学術図書、2008、第12刷。（ISBN: 4-87361-812-6）。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動Ⅳ（消費行動）						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	私たちはなぜ買い物をするのかを考える						
授業の概要	日本のような現代の先進国は大衆消費社会であり、人間の欲望・要求を実現するとともにさらに拡張していく経済システムの下、何を買うか選択することが生活の中で大きな位置を占めている。買い物が生活の中心であるからこそ、なぜ買い物するのか客観的に考える力を持たなければならない。この授業では、消費社会と欲望・欲求を論じたテキストによりながら、どのような欲求に基づいて買い物をするのかということと、過剰な消費社会における欲求のコントロールについて考える。加えて、心理学、行動経済学の研究成果から人間が買い物する時に示す心理・行動傾向を学び、現代社会における消費者の心理と行動を客観的に論じることのできる力を養う。						
到達目標	なぜ私たちが買い物をするのか心理面から分析できる。 現代社会における欲求のコントロールの難しさや方法について説明できる。 買い物の際に人が示す認知・行動傾向の基本を説明できる。						
授業計画	第1回 はじめに一買い物の無い生活 第2回 大衆消費社会の成立 第3回 なぜ万引きをするのか—欲求と動機を考える 第4回 欲求とは何か 1：基本的欲求 第5回 欲求とは何か 2：内発的動機と親和動機 第6回 欲求とは何か 3：達成動機と自己実現動機 第7回 欲求の模倣 第8回 欲求のコントロール 1：買い物依存の心理 第9回 欲求のコントロール 2：大衆消費社会と欲求 第10回 商品選択の心理：選択の負担 第11回 価格の相対性 第12回 予測の効果 第13回 損して得取る難しさ 第14回 時間の影響 第15回 商品選択の方略						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内容を復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間90分）。 特に関心を持った部分について参考書を読む（学習時間90分）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50% 中間レポート 30%、期末レポート 20%（ただし、両レポートの提出が必須）						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「消費の心理」						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動VI（社会）						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形で進む地域連携の具体例を知り、市民的成熟に基づいたコミュニティづくりを考える。						
授業の概要	本講義は、現代社会における地域が抱える諸問題について、いかにして関係諸機関が連携を図り、その問題解決を行うかについて学ぶ。 前半は、社会制度や行政の取り組みを考え、後半はコミュニティ・ビジネスや、ソーシャル・ビジネスの具体的な事例を紹介し、NPOや市民団体等による先駆的な実践を大阪～阪神間～神戸の地元から紹介する。 また、本学科が地域と連携して行っている活動についても紹介し、大学の地域貢献についても触れる。官民による多様な実践例から、身近な生活をよりよくする地域連携のあり方について考察する。						
到達目標	(1) コミュニティにおいての市民的成熟を身につけることができる。 (2) 地域のコミュニティづくりに参画することができる。 (3) 地域のコミュニティづくりの具体案を出すことができる。						
授業計画	<p>前半は「地域連携」の社会的意義、考え方を概論、後半は講師がこれまで関わってきたり取材してきたさまざまなNPOやTMOなどの組織、地域団体、組織、ネットワークの実例をリアルで紹介し、それを理解し考察する。</p> <p>第1回 この授業で学ぶこと。オリエンテーションに代えて          第2回 地域＝地方性と都市、まち。          第3回 地域と生きる。地域ではたらく。          第4回 血縁・地縁と公共。          第5回 ハイパーインダストリアル時代と地域性。地図と暦。          第6回 ソーシャル・キャピタルの見方。          第7回 信頼・規範・ネットワーク。岸和田だんじり祭礼と地域。          第8回 「naddist (HPナダタマ管理人)」(灘区)という「地域人」としての生き方。          第9回 「ナダタマ」の情報発信、地域イベント(行政、水道筋商店街)の実例から。          第10回 NPO「食と農の研究所」(灘区)の取り組み。都市と農家、農業          第11回 TMO尼崎の取り組み。「メイドイン尼崎コンペ」「メイドイン尼崎ショップ」          第12回 「月刊島民」と「ナカノシマ大学」(大阪市北区中之島)。          第13回 「ナカノシマ大学」の地域出版。          第14回 「天満天神繁昌亭」の開席と展開。上方落語協会と大阪天満宮、天神橋筋商店街の取り組み。          第15回 神戸松蔭女子学院大の地域連携。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	参考書を読むこと(1時間)。 授業計画にあがった実例の地元をその都度歩くこと、地域イベントなどに参加すること(2時間)。						
授業方法	毎回、レジュメや資料を配付します。実際のフィールドワークにつながるように、大阪～阪神間～神戸の実例を中心に講義する。毎回の講義の後、コメントペーパーを書いて提出してください。 学期中に、自分が知り得た地域連携の実例、タイムリーな地域イベントに参加して、それをレポートすること。						
評価基準と評価方法	レポート(50%)。各回提出のコメントペーパー(30%)、授業でのコール&レスポンス(20%)						
履修上の注意	3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。						
教科書	その都度、プリントを配布します。						
参考書	『ソーシャル・キャピタル入門～孤立から絆へ』稲葉陽二著、中公新書、ISBN-10: 412102138X 『奇跡の寄席 天満天神繁昌亭』堤成光著、140B、ISBN-10: 4903993043 『大阪の神さん仏さん』釈徹宗・高島幸次著、140B、ISBN-10: 4903993140 『古地図で歩く大阪ザ・ベスト10』本渡章著、140B、ISBN-10: 4903993299 『月刊島民』(フリーマガジン) 『メイドイン尼崎本』ティーエムオー尼崎 『南部再生～尼崎南部地域の情報誌』(フリーマガジン)						

参考書	HP 『ナダタマ』 <a href="http://www.naddist.jp">http://www.naddist.jp</a>
-----	---------------------------------------------------------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察						
授業の概要	日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、衣、食、住、ストレスや対人関係などの日常の生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理的な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期待できる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。</li> <li>2. 図表からわかることを文章で表現できる。</li> <li>3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 感覚の心理学的意味</li> <li>3. 行動と感情</li> <li>4. 行動と環境</li> <li>5. 人格</li> <li>6. 知覚－視覚－</li> <li>7. 対人魅力</li> <li>8. 発達</li> <li>9. 記憶</li> <li>10. 認知</li> <li>11. 感情</li> <li>12. 知覚－触覚－</li> <li>13. 対人関係</li> <li>14. 心理学の生活への応用</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次回の授業の内容に関係する疑問を言語化する。（学習時間：90分） 授業後学習：授業でとりあげた内容を確認し、実際の生活の中でどのように生かすことができるか各授業の内容を自分にあてはめて考える。（学習時間：90分）						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート(40%)：授業のなかで随時おこなう。到達目標3に関する到達度の確認。評価後に返却する。 試験(60%)：授業で解説した内容について説明できるか、図表から読み取ったことを表現し、自分の考えを展開できるかについて評価する。到達目標1と2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	「視覚世界の謎に迫る－脳と視覚の実験心理学」 ブルーバックス ISBN：978-4062575010 「美人は得をするか 「顔」学入門」 集英社新書 ISBN: 978-4087205589 「皮膚感覚と人間のこころ」 新潮社 ISBN：978-4-10-603722-1 「自分の価値を最大にするハーバードの心理学講義」 大和書房 ISBN: 978-4479795315						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムII（流通・マーケティング）						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①日常の変化に対するマーケティングの仕掛けについて興味・関心を高めることができる。 ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。 ③商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ⑤商品開発の難しさ・面白さを知ることができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティングのパラダイム革新 第3回 消費者行動とマーケティング 第4回 マーケティングの\$Pと\$TP 第5回 ブランドとは何か 第6回 ブランド・ロイヤルティとコミュニティ 第7回 製品戦略 第8回 価格戦略 第9回 チャネル戦略 第10回 マーケティング・コミュニケーション戦略 第11回 マーケティング・リサーチ 第12回 グローバルブランドのマーケティング戦略（ゲスト・スピーカーを予定） 第13回 サービスのブランド戦略 第14回 都市・地域のブランド戦略 第15回 マーケティングにおける社会性と倫理性						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①流行のものや話題のものを常に把握しておく。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください） ②新聞・雑誌必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ③新聞は必読						
教科書	『よくわかる現代マーケティング』陶山計介・鈴木雄也・後藤ゴズ恵編著、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-07975-9						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムIII（消費生活）						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	目まぐるしく変化する状況を消費生活の視点から捉え、消費者と企業（生産者も含む）の双方向から理解することで持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立を目指す。						
授業の概要	私たちが普段使っているもの、身につけているもの、家にあるものは、ほとんどがどこかで購入されたものである。お店に出向いて買うこともあれば、インターネットで買うということもあるだろう。私たちがどのようにしてこうしたものを買って使っているのか、一連の消費行動を振り返りながら考えていく。そして、経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方について学び、持続可能な社会の形成を考え、消費者の支援に必要な能力と態度とは何か理解を深めていく。						
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。 ②自らの消費者行動を振り返り、身の回りの変化に関心を高めることができる。 ③消費者の権利と責任を考え、実践していくために必要な知識を身につけることができる。 ④持続可能な社会の形成を考えるきっかけとなる。						
授業計画	第1回 個人としての消費者（家計の現状から） 第2回 消費生活の視点（知覚：人の数だけ現実が存在する） 第3回 生活における経済管理（学習：観察学習・・・動機づけ） 第4回 財・サービスの選択（記憶：思い出は美化される？） 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者（態度：好き・嫌いはいどのように生まれるのか） 第6回 意思決定—なぜそれを買ったのか— 第7回 人の好みの違いと消費者の権利・責任 第8回 コミュニケーション—発信源効果とメッセージ効果—（ゲストスピーカー） 第9回 店頭マーケティング—売れるお店はどうやってつくる？— 第10回 社会的存在としての消費者：アイデンティティ 第11回 家族の購買意思決定とライフサイクル、子供の社会化 第12回 集団—なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？— 第13回 ステータス—なぜモノが集団のシンボルになるのか？— 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動（サブカルチャー） 第15回 儀式としての消費（文化）と環境問題（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	常に新聞を見て情報を集めておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）などによる総合評価						
履修上の注意	①新聞必読 ②授業中の携帯電話、メール、居眠り、20分以上の遅刻・途中退出など、厳しく対処する。						
教科書	松井剛・西川英彦編著『1からの消費行動』、2016年、中央経済社						
参考書	随時、授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムIII（消費生活）						
担当教員	吉井 美奈子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費生活の現状を消費者と生産者双方の立場から捉え、消費者が権利の主体として意識を持ち、自ら情報を選択し行動することによって持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立をする。						
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。</li> <li>・ 消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を理解することができる。</li> <li>・ 消費者の権利と責任を実践していく仕組みを理解することができる。</li> <li>・ 持続可能な社会の形成を考えることができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 経済の発展と消費生活（家庭生活） 第2回 消費生活の視点 - 社会の変化と消費生活 - 第3回 生活における経済の計画と管理 第4回 財・サービスの選択と意思決定 - 広告と企業活動 - 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者 第6回 消費者問題 第7回 消費者の権利と関係法規 第8回 契約と消費生活（ゲストスピーカー） 第9回 決済手段の多様化と消費者信用 第10回 商品情報と消費者相談 第11回 消費者の自立支援と行政 第12回 消費者教育 第13回 消費生活と環境 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動 第15回 環境問題と消費者の関係（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書を読んで予習をしておくこと。 身近なニュースに関心を持っておく。。						
授業方法	講義を中心に、演習をすることがある。						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）などによる総合評価						
履修上の注意	教科書を読んで、予習をしておくこと。 発表等あるので、準備などをしっかりとする。 遅刻は15分以内、それ以降は欠席とする。 授業に積極的に参加すること。						
教科書	神山久美・中村年春・細川幸一（編著）『新しい消費者教育：これからの消費生活を考える』、2016年、慶応義塾大学出版会						
参考書	適宜、講義内で紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムⅣ（生活と経済）						
担当教員	竹田 美知・前田 直哉					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	生活と経済のかかわりを理解させ生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性を理解する。						
授業の概要	最近メディア報道で経済的諸問題、具体的には国債発行に見る累積赤字、不良債権問題と金融危機、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題、円相場の変動と輸出入の関係、産業の空洞化などが多く取り上げられる。本講義では、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題や産業の空洞化など、学生の卒業後の生活とかわる問題と関連させながら、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について認識させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済循環における家計の位置づけを家計の可処分所得の分析などの具体的な事例を通して理解できる。</li> <li>・生涯にわたる短期・長期の生活設計を行う上での個人の資産管理の基本的な考え方を理解できる。</li> <li>・キャッシュレス社会とその課題について理解できる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 日本の家計の金融行動と日本経済の資金循環（担当：前田） 第2回 今日の家計の特徴（担当：竹田） 第3回 貨幣の時間価値①：貨幣の時間価値と機会費用（担当：前田） 第4回 貨幣の時間価値②：貨幣の現在価値と将来価値（担当：前田） 第5回 金利①：金利の分類、名目金利と実質金利（担当：前田） 第6回 金利②：単利と複利、債券価格、株式価格と金利（担当：前田） 第7回 長期の生活設計におけるリスク管理（担当：竹田） 第8回 生涯賃金と支出（担当：竹田） 第9回 社会保障制度・中間試験（担当：竹田） 第10回 個人・家計の負債利用①：負債利用の意思決定プロセス、負債のコスト（担当：前田） 第11回 個人・家計の負債利用②：ローンの種類と目的（担当：前田） 第12回 個人・家計の負債利用③：クレジットローンの利用と返済（担当：前田） 第13回 ライフプラン実習（担当：竹田） 第14回 金融商品①：金融商品の種類、金融リスク、金利と利回り（担当：前田） 第15回 金融商品②：債券の種類、債券価格と利回り、信用リスクと利回り格差・定期試験（担当：前田）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集（学習時間：90分）</li> <li>・授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと（学習時間：90分）</li> </ul>						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験(40%)：第10～15回で取り上げた内容への理解度を評価する。</li> <li>・中間試験(40%)：第1～9回で取り上げた内容への理解度を評価する。</li> <li>・平常点(20%)：リアクションペーパー（講義内容を踏まえた練習問題）を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。</li> <li>・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。</li> <li>・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。</li> <li>・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。</li> </ul>						
教科書							
参考書	貝塚啓明・吉野直行・伊藤宏一〔編著〕『実学としてのパーソナルファイナンス』中央経済社を薦める。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムV（生活と法）						
担当教員	板持 研吾					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	広く生活に関わる法律問題を題材に、法についての基本的な考え方を学ぶ。						
授業の概要	「生活」といっても様々な場面があるが、①衣食住といった消費生活、②仕事や労働といった経済生活、③両者に関わる家族生活、の3つに切り分けて法の関わり方を考えていく。法律は難しいイメージがあるが、アレルギー反応を起こさないように学んでほしい。						
到達目標	①消費生活、②経済生活、③家族生活、のそれぞれの場面で法がどのように役立つかを知り、実践できるようになる。（ア）法の基本的な考え方、（イ）具体的な場面での法の役立て方、の両方を身に着ける。						
授業計画	<p>概要のとおり3つの場面に分けて順に学習していきます。大体次の通り予定します。</p> <p>第01回 インTRODクシヨン 生活の様々な場面 法の使い方  第02回 消費生活と法① 食と法  第03回 消費生活と法② 住と法  第04回 消費生活と法③ 衣と法  第05回 消費生活と法④ ショッピングと法  第06回 消費生活と法⑤ 銀行と法、小テスト（消費生活と法）  第07回 経済生活と法① アルバイトと法  第08回 経済生活と法② 就職活動と法  第09回 経済生活と法③ 仕事と法  第10回 経済生活と法④ 解雇（クビ）と法  第11回 小テスト（経済生活と法） 家族生活と法① 結婚と法(1) 婚姻  第12回 家族生活と法② 結婚と法(2) 離婚  第13回 家族生活と法③ 子育てと法、介護と法  第14回 家族生活と法④ 相続と法  第15回 小テスト（家族生活と法）、全体のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>初回の準備学習として、自分は普段の生活で何をしているか考えておく。</p> <p>第2回目以降については授業内で準備学習の内容を案内する。授業後には復習をし、不明なところがあれば授業後または次回に質問すること。</p> <p>第4回目以降は松蔭manabaも活用する。授業が始まってから詳しく案内する。</p>						
授業方法	主に講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	<p>1. 小テスト（60%…20%×3回）</p> <p>2. 期末試験（40%）</p>						
履修上の注意	<p>1. 小テスト・期末試験は追試等の救済措置を行わない。必ず出席して受験すること。</p> <p>2. 授業資料は授業内で配布するほか、松蔭manabaでも入手できるようにする。やむを得ず欠席する場合にはmanabaで入手すること。</p>						
教科書	使用しない。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うこと、企画の提案や研究成果等を他者に伝える力を養うことを目的とする。						
到達目標	Word, Excel, PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション（講義） 第2回 課題の設定と情報収集（演習） 第3回 統計の読み方と調査方法（演習） 第4回 文章作成演習－ビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーションの作成－デザイン（演習） 第13回 プレゼンテーションの作成－図表、グラフ（演習） 第14回 プレゼンテーション課題の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自己学習の課題が出た場合、次の授業開始までに提出すること。						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行なう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70% プレゼンテーションの課題と実演30%						
履修上の注意	3分の1以上の欠席は履修を認めない。						
教科書	教科書は使用しない。レジユメなどを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うこと、企画の提案や研究成果等を他者に伝える力を養うことを目的とする。						
到達目標	Word, Excel, PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション（講義） 第2回 課題の設定と情報収集（演習） 第3回 統計の読み方と調査方法（演習） 第4回 文章作成演習－ビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーションの作成－デザイン（演習） 第13回 プレゼンテーションの作成－図表、グラフ（演習） 第14回 プレゼンテーション課題の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自己学習の課題が出た場合、次の授業開始までに提出すること。						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行なう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70% プレゼンテーションの課題と実演30%						
履修上の注意	3分の1以上の欠席は履修を認めない。						
教科書	教科書は使用しない。レジユメなどを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	吉井 美奈子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	家庭生活に関わる情報の意義や役割、モラルを理解させ情報処理に関する知識と技術を習得させるとともに、家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアを主体的に活用する能力と態度を育てる。						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うこと、企画の提案や研究成果等を他者に伝える力を養うことを目的とする。						
到達目標	家庭生活に関わる、情報通信技術の基礎知識と各種ソフトウェアの知識と技能を習得する。Word、Excel、PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。						
授業計画	第1回 家庭生活における情報化の進展（講義）ブロードバンド通信、モバイル通信、IPアドレス、タブレット端末、スマートフォン、電子書籍リーダー、マルチメディアの現状と将来 第2回 情報モラルとセキュリティー（講義） 第3回 情報通信ネットワーク（課題の設定と情報収集）（講義）電子メール、SNS、Web情報検索、Webにおける情報発信、データベース、教具としてのソフトウェア 第4回 文章作成演習－生活産業に関わるビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－ヒューマンビジネスに関わる生活産業の企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーション課題の作成（演習） 第13回 プレゼンテーション課題の実演① 第14回 プレゼンテーション課題の実演② 第15回 家庭生活における情報及び情報活用の意義と倫理的な見方や考え方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自宅やPC教室で復習をしよう。 情報ツールを使った表現などに興味をもとう。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70%、プレゼンテーションの課題と実演30%						
履修上の注意	毎回、自分専用のUSBを持参すること・ 集中して課題に取り組もう。 遅刻は15分以内。それ以降は欠席になる。						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	特になし						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉				科目ナンバ-		
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる。</li> <li>・関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる。</li> <li>・ヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる。</li> <li>・母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し実際に計算できるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域～中間試験 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ $\chi^2$ 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ①～定期試験：グループごとのプレゼンテーション 第15回 授業のまとめ②～定期試験：グループごとのプレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集(学習時間：90分)</li> <li>・授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと(学習時間：90分)</li> </ul>						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	定期試験(30%)：授業の第14・15回目に行うので、両日に必ず出席すること。グループごとのプレゼンテーションが授業で取り上げた記述統計(第1～6回)と推定統計(第7～13回)を的確に理解している内容であるかどうか、自己のグループ発表の振り返り、他のグループ発表へのコメントを総合的に評価する。 中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容への理解度を評価する。 平常点(40%)：毎回提出のリアクションペーパー(講義内容を踏まえた練習問題)を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。</li> <li>・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。</li> <li>・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。</li> <li>・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。</li> </ul>						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉				科目ナンバ-		
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる。</li> <li>・関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる。</li> <li>・ヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる。</li> <li>・母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し実際に計算できるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域～中間試験 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ $\chi^2$ 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ①～定期試験：グループごとのプレゼンテーション 第15回 授業のまとめ②～定期試験：グループごとのプレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集(学習時間：90分)</li> <li>・授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと(学習時間：90分)</li> </ul>						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	定期試験(30%)：授業の第14・15回目に行うので、両日に必ず出席すること。グループごとのプレゼンテーションが授業で取り上げた記述統計(第1～6回)と推定統計(第7～13回)を的確に理解している内容であるかどうか、自己のグループ発表の振り返り、他のグループ発表へのコメントを総合的に評価する。 中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容への理解度を評価する。 平常点(40%)：毎回提出のリアクションペーパー(講義内容を踏まえた練習問題)を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。</li> <li>・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。</li> <li>・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。</li> <li>・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。</li> </ul>						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎Ⅰ						
担当教員	古濱 裕樹					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学問的専門領域のための化学と生物学						
授業の概要	生活の科学基礎Ⅰは、生活科学を学ぶための入門として生物学、化学の基礎的知識を身につけることを目的とする。複雑、多様化した現代社会におけるモノと人との関わりを中心とした生活の現状を理解し、問題を見出し、解決するための基礎的な知識、技術、態度を養う。人が健康で質の高い生活をするにはどのような自然科学の知識が必要か生活を取り巻く自然環境にも目をむけ、生活の衛生、モノの機能などの科学的な研究ができる力を養う。						
到達目標	レベルⅠ：化学と生物学が生活に役立てられることを理解する。 レベルⅡ：衣食住の事象やヒトの振る舞いを科学的な眼で見ることができる。 レベルⅢ：科学的視点によって、モノの効率的な利用方法を提言したり、モノ自体を改良したり、社会生活をより良く送ることができる。						
授業計画	第1回 化学や生物学をなぜ学ぶのか 第2回 物質とはなにかⅠ、心の性Ⅰ 第3回 物質とはなにかⅡ、心の性Ⅱ 第4回 元素とはなにかⅠ、心の発達Ⅰ 第5回 元素とはなにかⅡ、心の発達Ⅱ 第6回 化学結合とはなにかⅠ、心の発達Ⅲ 第7回 化学結合とはなにかⅡ、男女差の発達Ⅰ 第8回 物質「モル」とはなにかⅠ、男女差の発達Ⅱ 第9回 物質「モル」とはなにかⅡ、男女差の発達Ⅲ 第10回 有機化合物とはなにかⅠ、さまざまな性Ⅰ 第11回 有機化合物とはなにかⅡ、さまざまな性Ⅱ 第12回 高分子化合物とはなにかⅠ、さまざまな性Ⅲ 第13回 高分子化合物とはなにかⅡ、性の発達 第14回 化学・生物学の最新トピックス 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：教科書の指定ページを読み、配布する予習シートを書き込んで次回に持参する。 復習：授業で生じた疑問や興味について各自で調べ、配布する復習シートを書き込んで次回に持参する。 いずれのシートも授業開始時に回収する。						
授業方法	講義 化学と生物学の2冊の教科書に沿って授業を進める。毎回、配布する授業シートを記入し、提出する。						
評価基準と評価方法	平常点 100%（予習シート20%、復習シート20%、授業シート60%）						
履修上の注意	3種類のシートは提出の次週に返却するので、全てファイリングしておくこと。 スマホ等インターネットの使用は授業シートの記述に際しては認めないが、予習シートと復習シートにおいては使用してよい。 これらのシートの積み重ねによって最終評価に大きな差がつくことも予想されるため、毎回の積み重ねが重要である。						
教科書	図解・化学「超」入門 物質の基本がゼロからわかる（サイエンス・アイ新書）、左巻 健男、寺田 光宏、山田 洋一（著）、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:9784797363722 科学でわかる男と女になるしくみ（サイエンス・アイ新書）、麻生 一枝（著）、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:978-4797362107						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎II						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活にかかわる科学（化学、生物）について幅広く学び理解する。						
授業の概要	ヒトを含む様々な生物の生体の仕組みを学ぶ。 食品や調理に関する科学を理解する。 新聞や雑誌などで取り上げられた自然科学分野に関するいくつかのトピックスについても学ぶ。						
到達目標	ヒトの健康にかかわる疾病や免疫のしくみについて理解する。 食品や調理に関する科学的な原理を理解する。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：生物の分類 第3回：いろいろな生物の観察 第4回：酵素の働き 第5回：いろいろな生物の代謝 第6回：ヒトの健康と微生物 第7回：免疫のしくみ 第8回：ヒトの疾病と抗酸化 第9回：食生活とガン 第10回：調理の科学 第11回：食品の科学（1） 第12回：食品の科学（2） 第13回：自然科学分野のトピックスを新聞で探してみよう 第14回：自然科学分野のトピックスをインターネットで探してみよう 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前・授業後：配布資料を読んでおく。 新聞、インターネットなどで自然科学に関する記事を探す。						
授業方法	講義、および生物観察（実験）						
評価基準と評価方法	レポート90点 授業態度10点						
履修上の注意	特になし						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	今までに学んだ生活・消費に関する専門的知識から、主に企業のマーケティングや消費の仕方、ブランド展開等 人との関わり方や仕組みについて取り上げ、自ら論文を作成することができる。						
授業の概要	企業のマーケティング・マネジメントやブランド戦略、流通のしくみ、消費者のブランドイメージ、消費行動と いった分野でテーマを見つけ（問題意識をもつこと）、自ら主体的に問題設定を行い、解決する糸口が見つけら れるよう、1つ1つ丁寧に取り組むことを目的とする。 色々な事柄のなかから自分の興味・関心のあることから卒業研究のテーマを絞り、その後卒業論文としての構成 をどのように立てるのか具体的に考えていく（テーマを絞り込む）。既にそのテーマでされている先行研究の検 索、問題意識の明確化、テーマ設定の決定、調査方法論の決定、調査実施、データのまとめ、プレゼンテーショ ンという流れを通して、卒業論文の完成を目指す。 この過程では、好奇心旺盛に取り組みながら見聞を広め、主体性・協調性も共に大切になることも学ぶ。						
到達目標	①日頃から関心のあるテーマを自分で見つけ、関心を高めることができる ②問題点を見つけて出し調査を進める中で、独自の結果を導くことができる。 ③課題を批判的に捉え、論文を作成することができる。						
授業計画	第1回. 卒業研究とは何か。研究課題の探し方 第2回. 関心のある分野の領域 第3回. テーマ設定（原則） 第4回. 研究計画の立て方（論文構成と章構成） 第5回. 資料探しと文献検索の方法① 第6回. 資料探しと文献検索の方法② 第7回. 論文の書き方 第8回. 研究計画の発表① 第9回. 研究計画の発表② 第10回. 研究計画の発表③ 第11回. 研究計画の発表④ 第12回. テーマ決定後の進め方 第13回. 情報収集と先行研究のまとめ 第14回. 中間発表① 第15回. 中間発表② 第16回. 調査方法論の中間発表①（アンケート調査） 第17回. 調査方法論の中間発表②（インタビュー調査） 第18回. 調査方法論の中間発表③（フィールド調査） 第19回. 調査方法論の中間発表④（歴史資料調査） 第20回. 文献収集・先行研究批判 第21回. 文献収集とノート作り 第22回. 論文執筆（章立ての確認） 第23回. 引用文献、参考文献、図表などの資料添付の方法 第24回. 研究論文の発表① 第25回. 研究論文の発表② 第26回. 研究論文の発表③ 第27回. 研究結果と考察① 第28回. 研究結果と考察② 第29回. 卒論発表の仕方 第30回. 最終チェックとプレゼンテーションの準備						
授業外における 学習（準備学習 の内容・時間）	興味のあることを深く知るために、様々な情報を常に探しておきましょう。						
授業方法	演習						
評価基準と 評価方法	プレゼンテーションや発表準備（20%）、論文作成過程における中間評価（20%）、卒業論文の内容（60%） など総合的に評価する。						
履修上の注意	①何事にも好奇心旺盛に取り組む ②資料やデータ収集のために学外実習を行うこともある。入場料や交通費等は実費負担である。 ③無断欠席は厳しく対処する（積極的な参加姿勢が大事である）。 欠席する場合は、事前・事後に必ず報告する。						

教科書	なし。(必要に応じて資料を配布する)
参考書	各自のテーマに併せて、参考文献を紹介する

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	都市生活、都市生活についての学術的な研究論文を書く力をつける。						
授業の概要	「都市」すなわち「まち」について自分でテーマを見つけ、研究を進める演習の授業です。テーマはあなたたち自身が、興味や関心、問題意識を持つことがらを「具体的な問い」として立ててください。その問いに答えること、すなわちある程度の長さの文章を記述し、図表や写真なども使って、一つの研究論文に仕上げていきます。						
到達目標	(1) 研究論文を書くためにふさわしいテーマを見つけ、設定することができる。 (2) テーマに応じた、先行研究の文献などを調べたり、取材調査したり、データ収集ができる。 (3) 論文としてリーダブルな文章を書くことができる。 (4) 研究論文を要約してプレゼンテーションすることができる。						
授業計画	<p>都市生活専攻なので、都市（街・ストリートや店舗）、食（グルメ）、衣（ファッション）など、身近なところからテーマ（自分で立てた問題）を決め、先行研究など必要な文献を読み、現場に出て調査・取材し、論証としてまとめてゆき、自分なりの答えを出すことが、この卒業研究の論文を書くプロセスです。</p> <p>都市を解読することは、都市空間、店舗、デザインや音楽、グルメやファッションといった、表現の変数群がむちゃくちゃに入り組んでいるため、単なる文学作品のように「テキスト（書かれた文章）を読み解く」というようにはいきません。 だからテーマ、すなわち「立てるべき問い」は、できるだけ絞り込むほうがいいです。</p> <p>研究論文の文章（書き言葉としての言語運用）は、論理的でリーダブル（誰もが読める文）でなければなりません。そのあたりも研究・実践の対象となるので、社会人として世に出たときに役立つような「書くこと」のスキル獲得につながるように留意したいと思います。</p> <p>第1回 オリエンテーション。研究論文を書くために必要なあれこれ          第2回 文章を書くことのメカニズム          第3回 リーダブルな文章を書くこと、読み直すこと          第4回 論文執筆のルール。主語、文体、用字用語、文献引用などのルール          第5回 インターネット情報の扱いについて          第6回 テーマを考え、設定すること          第7.8.9回 テーマ（各自）の発表と講評          第10回 テーマ（各自）の決定          第11回 各自の研究方法について          第12・13・14回 研究論文作成（各自）のプロセス（見通し）発表          第15回 テーマと概要決定</p> <p>第16・17・18・19回 研究プロセスおよび成果発表          第20・21・22・23回 論文第1稿（各自）提出          第24回 論文第1稿返却と手直し指示          第25回 論文チェックと校正          第26回 最終訂正指示          第27回 卒業研究発表についての準備          第28回 卒業研究発表についての確認          第29回 卒業研究発表の予行演習          第30回 卒業研究発表</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	基本的に卒業研究論文を完成させるまでの研究、取材調査、インタビュー、文章執筆など一切のプロセスは、授業時間と場所以外で行われることになります。授業ではそのチェックと指導のみだと思ってください。						
授業方法	短期間に一気に仕上げていくのではなく、少しずつ試行錯誤しながら、2018年末（12月）までに、論文として仕上がるように進めていきます。論文の執筆内容、コンテンツの完成度のみならず、リーダブルな文章の書き方、アジェンダやレジュメの作り方なども指導します。						
評価基準と評価方法	研究論文完成までのプロセス、態度、取り組みの熱意（50%）、研究論文自体の完成度（50%）						
履修上の注意	原則としてすべて回に出席すること。欠席する場合はあらかじめ知らせること。						

教科書	『新版 論文の教室ーレポートから卒論まで』戸田山和久著、NHKブックス、ISBN-10: 4140911948
参考書	『小田嶋隆のコラム道』小田嶋隆著、ミシマ社、ISBN-10: 4903908356

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	1年から3年で学んだ都市生活に関する専門知識に立った上で、主に家族の関係や生活経営上の問題について、自ら問題を設定して取り組む。						
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題をとりあげ、自らがその関心に応じた問題を設定して取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに組み組み達成していく過程を通して、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。						
到達目標	知識 自分の問題意識に基づいた先行研究を読み解き、批判的思考によって新たな研究視点に基づき論理的に考える力をつける。 能力 問題を解決するための方法を選択し、文献調査や社会調査によって問題を分析し解決方法を見つけ出すことができる。 態度 家族の生活問題を解決し、社会貢献に対して積極的になる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講生の関心と領域</li> <li>2. テーマの設定</li> <li>3. 研究計画発表</li> <li>4. 卒論の構想について</li> <li>5. 情報収集、文献検索の方法</li> <li>6. 図書館利用のコツ</li> <li>7. 公的資料の探し方</li> <li>8. 論文の書き方</li> <li>9. 引用文献の書き方・注の書き方</li> <li>10. 専門用語の定義について</li> <li>11. 文章の点検と推敲</li> <li>12. テーマの関する先行研究の紹介・発表</li> <li>13. 各自の中間発表Ⅰ（卒論の目次と資料調査のまとめ）</li> <li>14. 各自の中間発表Ⅱ（卒論の目次と資料調査のまとめ）</li> <li>15. 各自の中間発表Ⅲ（卒論の目次と資料調査のまとめ）</li> <li>16. 研究方法についての確認（質問紙調査）</li> <li>17. 研究方法についての確認（インタビュー調査）</li> <li>18. 研究方法についての確認（ドキュメント調査）</li> <li>19. 各自の研究Ⅰ・研究状況中間発表Ⅰ</li> <li>20. 各自の研究Ⅱ・研究状況中間発表Ⅱ</li> <li>21. 各自の研究Ⅲ・研究状況中間発表Ⅲ</li> <li>22. 研究成果と卒論の構成</li> <li>23. 研究成果と図表の作り方</li> <li>24. 研究成果と考察・結論</li> <li>25. 卒論発表の仕方</li> <li>26. 口頭発表の仕方</li> <li>27. ポスター発表の仕方</li> <li>28. 概要の書き方</li> <li>29. 卒論の最終チェック</li> <li>30. ゼミ内発表</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分自身で設定したテーマの資料収集を授業外には行い、フィールドでは積極的に参与観察を行い調査をする。（学習時間：それぞれの授業回で240分） 調査の設計、データの入力、データクリーニング、データ分析、発表の準備に関しては授業外に行う。（学習時間：それぞれの各段階で360分）						
授業方法	演習 グループディスカッション プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション（10%）、授業における貢献度（5%）、卒業論文作成過程における中間評価（5%）、卒業論文の内容（80%） 前期は、それぞれのテーマに従い資料収集およびデータ分析、調査を行い、授業回でプレゼンテーションをする。プレゼンテーションの成果については、到達目標と都市生活卒論ルーブリック評価に従い評価をする。 後期は、卒論の本体と概要の作成、卒論発表会のプレゼンテーションを、到達目標と都市生活卒論ルーブリック評価に従い評価をする。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので、出席を重視する。資料やデータ収集のため学外で実習を行うことがある。入場料、交通費などの実費負担がある。						

教科書	
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	心理学的研究に関する卒論の作成						
授業の概要	卒論に向けて、心理学の実験研究をおこなう。自ら心理学の課題を設定し、先行研究を探索、紹介し、課題を設定したのち、課題解決のための方法を計画、実施し、データをまとめ、考察し、プレゼンテーションし、卒業論文としてまとめる。						
到達目標	先行研究を発展させ、自ら心理学の実験・研究計画をたて、実行、まとめ、発表することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 実験・調査の準備</li> <li>3. 実験・調査の準備</li> <li>4. 実験・調査の準備</li> <li>5. 実験・調査の準備</li> <li>6. 第1回報告会</li> <li>7. 実験・調査の実施</li> <li>8. 実験・調査の実施</li> <li>9. 実験・調査の実施</li> <li>10. 実験・調査の実施</li> <li>11. 実験・調査のまとめ</li> <li>12. 実験・調査のまとめ</li> <li>13. 実験・調査のまとめ</li> <li>14. 第2回報告会</li> <li>15. 第2回報告会</li> <li>16. 実験・調査の準備</li> <li>17. 実験・調査の準備</li> <li>18. 実験・調査の準備</li> <li>19. 実験・調査の準備</li> <li>20. 実験・調査の実施</li> <li>21. 実験・調査の実施</li> <li>22. 第3回報告会</li> <li>23. 実験・調査のまとめ</li> <li>24. 実験・調査のまとめ</li> <li>25. 実験・調査のまとめ</li> <li>26. 実験・調査のまとめ</li> <li>27. 実験・調査のまとめ</li> <li>28. 実験・調査のまとめ</li> <li>29. 第4回報告会</li> <li>30. 第4回報告会、講評</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、修正、改善する。（学習時間：90分）</p> <p>目安時間に関わらず、自分の納得のいくまで取り組む態度が必要である。</p>						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	報告書や卒論(80%)、参加の取り組み(20%)						
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。						
教科書							

参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821097
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	衣生活学、色彩学に関連するテーマを取り上げ、卒業論文を作成する。						
授業の概要	前期はテーマを設定し、先行研究の調査、予備実験等をおこなった上で、研究計画を作成する。 後期は定期的に進捗を確認しながら本実験、調査を進め、提出締切日までに卒業論文を完成させる。						
到達目標	各自のテーマに沿って研究を行ない、知見を得る。 論理的に文章を組み立て、一定水準の卒業論文を完成させる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：先行研究の調査 1 第3回：先行研究の紹介 2 第4回：先行研究の紹介 3 第5回：テーマの設定と研究計画の検討 1 第6回：テーマの設定と研究計画の検討 2 第7回：テーマの設定と研究計画の検討 3 第8回：予備実験 1 第9回：予備実験 2 第10回：予備実験 3 第11回：研究テーマと研究計画の発表 1 第12回：研究テーマと研究計画の発表 2 第13回：研究テーマと研究計画の発表 3 第14回：研究の実践 第15回：中間発表 第16回：研究の実践 第17回：研究の実践 第18回：研究の実践 第19回：研究進捗状況の確認 第20回：研究の実践 第21回：研究の実践 第22回：研究の実践 第23回：研究進捗状況の確認 第24回：卒業論文執筆の方法 1 第25回：卒業論文執筆の方法 2 第26回：研究進捗状況の確認 第27回：論文の完成 第28回：論文要旨作成 第29回：研究発表準備 第30回：研究発表準備						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業時間外にも研究を進めていくことが必要となる。（授業前後、120分） 一斉授業の他、必要に応じて個人指導をおこなう。						
授業方法	演習、実験						
評価基準と評価方法	研究への取り組み 50%、卒業論文 50%						
履修上の注意	研究は互いに協力し合いながら計画的にすすめること。 提出期限を守ること。						

教科書	使用しない。
参考書	随時紹介する。

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	1年次から3年次の間で学んできたことの集大成として、各自が金融問題に取り組み、その解決策を提示する。						
授業の概要	この4年生のゼミナールでは、個人研究がメインとなる。各自が卒業論文の全体構想と構成内容について報告して、議論を重ね、それぞれの内容を繰り返し見直すことを通じて、卒業論文を完成させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自がどのような金融問題を存在するかを考え、その先行研究を批判的に検討した上で、新たな課題を見つけ出すことができるようになる。</li> <li>各自が設定した課題を金融理論と統計データに基づいて分析することができるようになる。</li> <li>卒業論文の作成とその発表を通じて、有用な金融的提言を行うことができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 論文の作成方法①：語と表現、引用 第3回 論文の作成方法②：句読点、表記規則 第4回 論文の作成方法③：論文の構成、構成の作り方 第5回 論文の作成方法④：本論のまとめ方、論文のモデル 第6回 論文の作成方法⑤：序論の役割、背景の説明 第7回 論文の作成方法⑥：問題提起、方向付け 第8回 論文の作成方法⑦：先行研究の紹介 第9回 論文の作成方法⑧：本論の役割、論拠提示 第10回 論文の作成方法⑨：意見提示、結論提示、行動提示 第11回 論文の作成方法⑩：結びの役割、全体のまとめ、展望提示 第12回 論文の作成方法⑪：図表に関する表現、資料に関する表現 第13回 論文の作成方法⑫：展開の技術、論文の付属要素 第14回 テーマ発表① 第15回 テーマ発表② 第16回 草稿(序論から先行研究の紹介まで)の第1回提出と序論から先行研究の紹介までの発表① 第17回 序論から先行研究の紹介までの発表② 第18回 序論から先行研究の紹介までの発表③ 第19回 序論から先行研究の紹介までの内容見直し 第20回 図書館での演習① 第21回 図書館での演習② 第22回 本論の発表① 第23回 本論の発表② 第24回 本論の発表③ 第25回 本論の内容見直し 第26回 卒業論文の最終チェック 第27回 卒業論文の最終提出と卒業論文要旨の作成 第28回 卒業論文要旨の最終チェック 第29回 口頭試問① 第30回 口頭試問②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業前学習：関係資料の収集、グループ研究の報告準備、個人研究の報告準備(学習時間：90分)</li> <li>授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、グループ研究の報告内容の見直し、個人研究の報告内容の見直し(学習時間：90分)</li> </ul>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>草稿(序論から先行研究の紹介まで)の第1回提出(20%)：テーマと内容、構成、アプローチが整合的であるかどうか、問題意識の設定、先行研究の紹介が的確であるかどうかを評価する。</li> <li>草稿の第2回提出(20%)：論理展開、データの裏付けが的確であるかどうかを評価する。</li> <li>卒業論文の最終提出(20%)：テーマと内容、構成と体裁、アプローチ、論理展開、データの裏付け、独創性を評価する。</li> <li>口頭試問(20%)：卒業論文の内容質問に対するリプライが的確であるかどうかを評価する。</li> <li>平常点(20%)：リアクションペーパー(講義内容、グループ研究報告、個人研究報告に関するコメントと質問)で評価する。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席回数が規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。</li> <li>出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。</li> <li>講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。</li> <li>就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。</li> <li>学外研修・見学の際にかかる入場料や交通費については実費負担とする。</li> </ul>						

教科書	特に使用しない。
参考書	個人のテーマに合わせて、適宜、紹介する。

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連データの探し方</li> <li>2. 官公庁統計の収集・整理</li> <li>3. フィールドワーク論文の読み方</li> <li>4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力</li> <li>5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差</li> <li>6. 相関係数 因果関係と相関関係</li> <li>7. 相関係数とその検定</li> <li>8. クロス集計の基礎</li> <li>9. クロス集計表の検定-<math>\chi^2</math>検定-</li> <li>10. エクセルによるグラフの作成</li> <li>11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成</li> <li>12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定-</li> <li>13. SPSSによる統計分析 (2) --一元配置の分散分析-</li> <li>14. 報告書の作成</li> <li>15. 報告書の作成</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題（10%）、レポート（10%）、小テスト（20%）、期末テスト（60%）						
履修上の注意	復習は必ずすること。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連データの探し方</li> <li>2. 官公庁統計の収集・整理</li> <li>3. フィールドワーク論文の読み方</li> <li>4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力</li> <li>5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差</li> <li>6. 相関係数 因果関係と相関関係</li> <li>7. 相関係数とその検定</li> <li>8. クロス集計の基礎</li> <li>9. クロス集計表の検定-<math>\chi^2</math>検定-</li> <li>10. エクセルによるグラフの作成</li> <li>11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成</li> <li>12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定-</li> <li>13. SPSSによる統計分析 (2) --一元配置の分散分析-</li> <li>14. 報告書の作成</li> <li>15. 報告書の作成</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題（10%）、レポート（10%）、小テスト（20%）、期末テスト（60%）						
履修上の注意	復習は必ずすること 20分以上の遅刻は欠席扱いとする						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理学						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調理をするために必要な知識を学ぶ。						
授業の概要	エネルギー量、たんぱく質量などで表される必要栄養量を、食事という実際に食べられる形に変える仕事を調理という。調理は最も好ましい状態で食べ物が食されるようにすることで、必要な栄養を充足させるだけでなく、おいしく心理的にも満足させるものでなくてはならない。調理学ではこのような調理をするために必要な知識、すなわち食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを学ぶ。						
到達目標	(1) 食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを理解する。 (2) 状況に合わせた食事設計ができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理の意義、食べ物の嗜好性 第2回 おいしさの演出 第3回 食事設計 第4回 調理操作—非加熱操作と器具 第5回 調理操作—加熱操作と器具、熱源の種類と加熱機器・器具 第6回 包丁の知識勉強会・研ぎ講習会「ゲスト・スピーカー招へい予定」 第7回 炭水化物を多く含む食品の調理性 第8回 たんぱく質を多く含む食品の調理性 第9回 ビタミン・無機質を多く含む食品の調理性 第10回 成分抽出素材の利用と調理性 第11回 調理と摂食機能 第12回 安全性への配慮 第13回 調理から加工への展開 第14回 消費と流通への展開 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。授業の終わりには各回の課題についてまとめる時間をとり、ミニレポートを作成して提出する。また、2日間の食事を記録する課題によって、自らの食生活を客観的にふり返り、食事設計を行う。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 期末試験50%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題20%：2日間の食事記録の取り組み方、客観的な振り返りの積極性を評価する。(2)に関する到達度の確認。 受講態度30%：各回提出のミニレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。(1)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 ミニレポートのコメント・質問等について、翌週の授業で紹介・解説する。ミニレポートは添削して返却する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および毎回のミニレポートで応じる。						
教科書	『調理学』、(公社)日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、ISBN 978-4-7679-0524-2						
参考書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	馬場 公恵					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3~4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	調理実習を通して基本的な調理操作を習得し、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を習得させる。						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技術を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な調理を行うことによって、調理の特異性、調理の楽しさ・面白さ・大切さ、そして調理の可能性について理解し、調理に対する興味を広げる。</li> <li>調理技術を習得することによって、食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促す。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方 第2回 炊飯、だしのとり方、青菜の茹で方、出汁巻き卵 第3回 炊き込みご飯、茶碗蒸し、和え物、白玉粉① 第4回 魚のおろし方・塩焼き、乾物のもどし方・炊き合わせ、和え物、ご飯、味噌汁、寒天① 第5回 コンソメスープ、ムニエル、サラダ・フレンチドレッシング、カスタードプディング 第6回 小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麺の茹で方①パスタ、ソテー、ゼリー①アガー 第7回 小麦粉②ブラウルウ・肉料理、付け合せ、サラダ・マヨネーズ、クッキー、コーヒー 第8回 小麦粉③ピザ、魚介類のフライ、ミネストローネ、フルーツサラダ、ゼリー②ゼラチン 第9回 小麦粉④わんたん、酢豚、豆腐入りコンソメスープ、中国風カステラ、花茶 第10回 中華ちまき、うずら卵のスープ、春巻き、寒天②杏仁豆腐、烏龍茶 第11回 青椒牛肉糸、トマトと卵のスープ、酢の物、白飯、白玉粉②ゴマ団子、プーアル茶 第12回 おばんざい<煮魚、おから、野菜の煮浸し、和え物>、ご飯、汁物 第13回 行事食①<お寿司>、飾り切り、麺の茹で方②吸い物、茶巾しぼり、お茶二種 第14回 小麦粉⑤ケーキ・サレ、ポタージュスープ、シュークリーム、紅茶 第15回 行事食②<おこわ、おはぎ・ぼたもち>、お茶二種、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに調理をする。（学習時間：120分）						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。 【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。						
履修上の注意	「調理学」の単位取得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持ち込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習レポートの提出によって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。						
教科書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4						

参考書	映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN978-4-8103-1395-6
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	松木 宏美				科目ナンバ-		
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	調理実習を通して基本的な調理操作を習得し、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を習得させる。						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技術を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な調理を行うことによって、調理の特異性、調理の楽しさ・面白さ・大切さ、そして調理の可能性について理解し、調理に対する興味を広げる。</li> <li>調理技術を習得することによって、食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促す。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方 第2回 炊飯、だしのとり方、青菜の茹で方、出汁巻き卵 第3回 炊き込みご飯、茶碗蒸し、和え物、白玉粉① 第4回 魚のおろし方・塩焼き、乾物のもどし方・炊き合わせ、和え物、ご飯、味噌汁、寒天① 第5回 コンソメスープ、ムニエル、サラダ・フレンチドレッシング、カスタードプディング 第6回 小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麺の茹で方①パスタ、ソテー、ゼリー①アガー 第7回 小麦粉②ブラウルウ・肉料理、付け合せ、サラダ・マヨネーズ、クッキー、コーヒー 第8回 小麦粉③ピザ、魚介類のフライ、ミネストローネ、フルーツサラダ、ゼリー②ゼラチン 第9回 小麦粉④わんたん、酢豚、豆腐入りコンソメスープ、中国風カステラ、花茶 第10回 中華ちまき、うずら卵のスープ、春巻き、寒天②杏仁豆腐、烏龍茶 第11回 青椒牛肉糸、トマトと卵のスープ、酢の物、白飯、白玉粉②ゴマ団子、プーアル茶 第12回 おばんざい<煮魚、おから、野菜の煮浸し、和え物>、ご飯、汁物 第13回 行事食①<お寿司>、飾り切り、麺の茹で方②吸い物、茶巾しぼり、お茶二種 第14回 小麦粉⑤ケーキ・サレ、ポタージュスープ、シュークリーム、紅茶 第15回 行事食②<おこわ、おはぎ・ぼたもち>、お茶二種、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。（学習時間：60分） 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材について整理し、レポートを作成する。レポートにまとめたことをもとに調理をする。（学習時間：120分）						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講態度50%、提出物40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）より、総合的に評価する。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。						
履修上の注意	「調理学」の単位取得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とし、携帯電話の持込みを禁止する。 試食後の後片付けと清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物については、提出期限厳守。実習レポートの提出によって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。						
教科書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4						
参考書	映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法I						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	質問紙調査で得られたデータの分析によく利用される多変量解析法について、基礎的な考え方とともに、各種解析法とその分析手順について学習する。特に、分散分析、重回帰分析、因子分析について詳しくとりあげる。						
授業の概要	社会学・経営学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。使用するデータは「社会調査基礎演習I」で得られた質問紙調査であり、このデータを統計ソフト（SPSS）を用いて実際に多変量解析を行う。解析の方法は、重回帰分析を中心として、その後データの構造や仮説によって、分散分析や共分散分析、t検定あるいはパス解析や因子分析、数量化理論の適用など、少なくとも2・3種類の統計手法を体験させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問紙から得られたデータを、適切な手法で分析することができるようになる。</li> <li>・今までのデータ知識とは違う読み取り方ができるようになる。</li> <li>・得られたデータから現状を理解し、問題点を捉えることができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス～多変量解析とは 第2回 多変量を要約する：多変量データの種類 第3回 データセットの作成方法：SPSSの基本操作 第4回 記述統計の作成方法：SPSSによる記述統計 第5回 分散分析とは：3つ以上のグループで平均値を比較するための手法 第6回 分散分析の適用方法：一元配置の分散分析、二元配置の分散分析 第7回 分散分析を体験する：SPSSによる分散分析～中間試験 第8回 重回帰分析とは：説明変数が2つ以上の回帰分析 第9回 重回帰分析の適用方法：最小二乗法、偏回帰係数の解釈、決定係数、決定係数の有意性検定、変数選択 第10回 重回帰分析の問題点：多重共線性とその対応方法 第11回 重回帰分析を体験する：SPSSによる重回帰分析 第12回 因子分析とは：複数の観測変数の中から共通因子を抽出するための手法 第13回 因子分析の適用方法：探索的因子分析、確証的因子分析 第14回 因子分析を体験する：SPSSによる因子分析 第15回 まとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：授業で取り上げる内容の予習、図書館での資料収集（学習時間：90分）</li> <li>・授業後学習：授業で取り上げた内容の要点の確認、練習問題に再び取り組むこと（学習時間：90分）</li> </ul>						
授業方法	各回設定のテーマについての講義と演習						
評価基準と評価方法	定期試験(30%)：第8～14回で取り上げた内容への理解度を評価する。 中間試験(30%)：第1～7回で取り上げた内容への理解度を評価する。 平常点(40%)：毎回提出のリアクションペーパー（講義内容を踏まえた練習問題）を評価するとともに、到達目標の達成度を確認する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数規定に満たない場合は、原則として評価の対象としない。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。</li> <li>・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。</li> <li>・就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合は、証明書とともに、欠席届を提出した場合にのみ、考慮の対象とする。</li> <li>・講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行う。その結果は平常点をカウントする際の材料とする。</li> </ul>						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法II						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	インタビューすること、インタビュー記事を書くことを実践的に学ぶ。						
授業の概要	質的研究を行うための基礎的な事柄について学習する。とくにインタビュー調査について、データの収集・整理・分析のための練習を行い、最終的には各自でデータを収集し、整理・分析したレポートを作成する。質的調査の一連のプロセス（研究テーマ作成）を経験することを通じて、基礎的な力をい身につけ、実際に質的調査（インタビュー調査）を企画・実施することができるようになることが目的である。						
到達目標	<p>(1) 取材としてのインタビューを実際に行うことができる。</p> <p>(2) インタビュイー（インタビューを受ける人）との十全なりレーションシップを取ることができる。</p> <p>(3) インタビューした内容を情報化、記述することができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の目的、内容、進め方、評価の方法など）</p> <p>第2回 情報化社会とメディア</p> <p>第3回 情報と情報化</p> <p>第4回 インタビュアー（聞き手）とインタビュイー（話し手）</p> <p>第5回 インタビューの準備と申し込み</p> <p>第6回 インタビューの方法</p> <p>第7回 新聞・雑誌媒体のインタビュー記事</p> <p>第8回 インタビューを情報化する</p> <p>第9回 取材とインタビュー</p> <p>第10回 コミュニケーションとインタビュー</p> <p>第11回 インタビュー取材の準備の実際</p> <p>第12回 インタビュー取材の実施</p> <p>第13回 インタビュー記事を書く</p> <p>第14回 インタビュー記事の講評と手直し</p> <p>第15回 インタビュー記事を完成させる</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞や雑誌、ネットなどのさまざまなインタビュー記事を読むこと。						
授業方法	編集者／著述家として、実際にインタビュー記事書いている実例をもとに講義する。毎回レジュメを配布し、それをもとに講義する。						
評価基準と評価方法	試験は実施しない。課題提出（取材、インタビュー記事作成）70%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言30%。						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない者には単位認定をしません。						
教科書	『インタビュー』木村俊介著、ミシマ社 ISBN-10: 4903908968						
参考書	『インタビュー術!』永江朗著、講談社現代新書、ISBN-13: 978-4061496279 『人物ノンフィクション 表現者の航跡』後藤正治著、岩波現代文庫、ISBN-13: 978-4006031879						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活インターンシップI／企業研究（インターンシップ）						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来就職したい業種・業界に関連する企業（営利組織を中心に）で必要とされる知識を修得し、10日間の体験を通して専攻の分野がどのように活かされるのか、社会で「働く」ために必要なスキルを身につけながら考える。						
授業の概要	①社会に出て働くことの意義とその働き方について考える。（アルバイト、フリーター、正社員との違い） ②様々な業界・業種の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で業務体験実習（インターンシップ）を行う。 ③社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につける（自己分析にもつながる） ④自分に適した職業選択ができる、キャリアデザイン（人生設計）を組み立てることができる、ことを目指す。 ⑤前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力といった社会人基礎力の必要性について考える。 ⑥営利組織の目的を学ぶ。						
到達目標	①専攻の分野が社会でどのように役立つかを考えることができる ②前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につけることができる ③社会で「働く」ことを考えることができる。						
授業計画	第1回. 実習先の事業内容の確認 第2回. 実習先への提出書類の作成 第3回. 社会人としての心構え—仕事の基本— 第4回. ビジネス・マナーと話し方のマナー 第5回. 「実習先について」「自己紹介の仕方」、学生の発表 第6回. 電話対応のマナー、手紙の書き方 第7回. 企業での現地実習① 第8回. 企業での現地実習② 第9回. 企業での現地実習③ 第10回. 企業での現地実習④ 第11回. 企業での現地実習⑤ 第12回. 企業での現地実習⑥ 第13回. 企業での現地実習⑦ 第14回. 実習報告のまとめ 第15回. 実習報告プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①インターンシップを通して自分は何を得ようとするのか、その目的を明確にしてください。 ②企業で10日間の体験実習を行います（都市生活専攻独自の実習先に研修）。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	事前・事後レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、学習態度（実習先の研修も含む）と授業参加姿勢など総合的評価（60%）						
履修上の注意	①授業への積極的な参加が重要。 ②派遣研修は、夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。 ③必ず連絡・相談・報告をすること。 ④研修中は、派遣先の指導に従うこと。 ⑤実習に伴う交通費などは自己負担となる。						
教科書	プリントを配布						
参考書	随時紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活インターンシップII						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	NP0や市民活動団体、ボランティア団体など非営利組織で仕事をするために必要な知識（社会の捉え方や働き方）の習得と、その現場での10日間の体験を行う。						
授業の概要	実社会で「働く」ことをインターンシップを通じて体験する。さまざまな非営利組織、とくにその「地元」において、タウン誌やネットでの情報発信、地域イベントなどの地域活動、まちづくりの実践や市民ネットワークづくりなどをおこなっている組織や団体の実際の仕事を体験することによって、幅と奥行き深い社会と意義のある仕事の関係性を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「仕事とは何か」「社会で働く」ことを考えることができる。</li> <li>(2) 利益や営利、経済合理性追求だけではない、現在進行形の「地域活動」と「働く場」を理解する。</li> <li>(3) 専攻の分野が地域社会でどのように役立つかを考えることができる。</li> <li>(4) 様々な業界・業種の実態や職場のルール、マナーを理解し、就職などのキャリアデザインに活かすことができる。</li> </ol>						
授業計画	<p>【5月20日（土）3.4時限目】</p> <p>第1回 実習先の事業と研修内容の確認 第2回 実習先への提出書類の作成</p> <p>【7月7日（土）3.4時限目】</p> <p>第3回 「企業」とは何か、どういうところか。そこで「働く」とは 第4回 仕事の基本、ビジネス・マナーと話し方のマナー</p> <p>【夏休み中（実習先により異なるが7月末～9月中旬の期間のうち2週間（10日間）実習予定）】</p> <p>第5～14回 インターンシップ現地実習</p> <p>【9月20日（土）3.4時限目】</p> <p>第15回 実習のまとめと報告</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	あらかじめ実習、派遣研修先の活動内容をよく調べて、理解しておく（5時間）。インターンシップで何を実習し、なにを学ぶのかを考えておく（5時間）。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	事前の準備とその姿勢（20%）、事後報告レポート（20%）、実習先の研修態度と授業参加姿勢など総合的評価（60%）						
履修上の注意	授業への積極的な参加が重要です。実習すなわち派遣研修は夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。実習中は、実習先の指導に従い、実習先・大学ともに報告・連絡・相談を密にすること。実習に伴う交通費などは自己負担となる。						
教科書	プリントを配布						
参考書	随時紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習Ⅰ						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 またこのテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。						
授業の概要	各自で設定したテーマを個別指導する。 研究の内容によって調査、試作（調理）、実験を行う。						
到達目標	次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法、試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。 成果は授業終了時に発表し、1年間の演習の仕上げとする。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 効率的な研究計画の立て方 第3回 文献の調査方法 第4回 学術論文の読み方 第5回 研究テーマを決める 第6回 研究に必要な手法を探る 第7回 研究計画を立てる 第8回 各自の研究について 個別指導 第9回 各自の研究について 個別指導 第10回 各自の研究について 個別指導 第11回 各自の研究について 個別指導 第12回 各自の研究について 個別指導 第13回 各自の研究について 個別指導 第14回 各自の研究について 中間報告会 第15回 各自の研究について 中間報告会 第16回 後期研究打ち合わせ 第17回 各自の研究について 個別指導 第18回 各自の研究について 個別指導 第19回 各自の研究について 個別指導 第20回 各自の研究について 個別指導 第21回 各自の研究について 個別指導 第22回 各自の研究について 個別指導 第23回 各自の研究について 個別指導 第24回 研究のまとめ方について 第24回 報告会 準備 第25回 報告会 準備 第26回 報告会 準備 第27回 報告会 準備 第28回 報告会 準備 第29回 報告発表会 第30回 報告発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	都度、指示する。						
授業方法	講義、演習、実習、実験						
評価基準と評価方法	授業態度30点 プレゼンテーション 70点						
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなど、授業外の時間も使う場合あり						

教科書	
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習II						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を応用し、地域貢献に結びつける。共同プロジェクトを通して地域社会から学ぶ。						
授業の概要	神戸市の農家との共同プロジェクトとして、花卉生産者、野菜生産者とのコラボ商品を開発する。神戸市灘区との地域連携プロジェクトに参加する。						
到達目標	プロジェクトの中で役割を果たしながら、得意なことを生かし、不得意なことにも向き合えるようになる。都市生活専攻で学んだ専門知識を再確認し、応用できるようになる。						
授業計画	第1回：ガイダンス、ガイダンス、東播磨花卉生産者との共同プロジェクト① 企画打ち合わせ 第2回：花卉生産者との共同プロジェクト①（東播磨） 試作品の検討 第3回：花卉生産者との共同プロジェクト① 製作 第4回：花卉生産者との共同プロジェクト① 製作 第5回：花卉生産者との共同プロジェクト① まとめ 第6回：花卉生産者との共同プロジェクト②（伊川谷） 企画打ち合わせ 第7回：花卉生産者との共同プロジェクト② カラーコンサルタント試料の作成 第8回：花卉生産者との共同プロジェクト② カラーコンサルタント試料の作成 第9回：花卉生産者との共同プロジェクト② カラーコンサルタント試料の作成 第10回：野菜生産者との共同プロジェクト 企画打ち合わせ 第11回：野菜生産者との共同プロジェクト 試作品の検討 第12回：野菜生産者との共同プロジェクト 製作 第13回：野菜生産者との共同プロジェクト 製作 第14回：野菜生産者との共同プロジェクト 製作 第15回：野菜生産者との共同プロジェクト 製作 第16回：地域連携プロジェクト①（ファミリー向け） 企画打ち合わせ、試作品の検討 第17回：地域連携プロジェクト① 試作、準備 第18回：地域連携プロジェクト②（高齢者、一般向け） 企画打ち合わせ、試作品の検討 第19回：地域連携プロジェクト② 試作 第20回：学祭、中高バザーの準備 第21回：学祭展示の準備② 第22回：学祭、中高バザーの準備 第23回：地域連携プロジェクト①②、まとめ 第24回：地域連携プロジェクト③（六甲山牧場） 企画打ち合わせ 第25回：地域連携プロジェクト③ 作業、ディスカッション 第26回：地域連携プロジェクト③ 作業、ディスカッション 第27回：地域連携プロジェクト③ 作業、ディスカッション、まとめ 第28回：最終課題についてのガイダンス 第29回：最終課題レポート作成 第30回：1年間のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	打合せやイベント、製作、学外実習（時期はプロジェクトの進捗状況等による）など、授業時間外（土日、長期休暇）の学習あり。（年間60時間程度）						
授業方法	演習、実験、実習、学外実習						
評価基準と評価方法	平常点80点、レポート20点 平常点はプロジェクト等への取り組みを総合的に評価する。						
履修上の注意	授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 交通費等自己負担あり。						
教科書	プリントを配布する。						

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習III						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	心理学研究法の習得						
授業の概要	心理学実験、心理学調査などの心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法と心理学調査法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後、学生がその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。実験編と調査編に分けて実施する。						
到達目標	先行研究を参考にして心理学の実験を計画、実行、まとめ、発表できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. レポートの書き方</li> <li>3. 研究例の紹介</li> <li>4. 文献紹介</li> <li>5. 先行研究の紹介</li> <li>6. 実験計画法(1)</li> <li>7. 実験計画法(2)</li> <li>8. 心理学実験法(1)</li> <li>9. 心理学実験法(2)</li> <li>10. 実験(1)</li> <li>11. 実験(2)</li> <li>12. データ処理(1)</li> <li>13. 統計処理法(1)</li> <li>14. 統計処理法(2)</li> <li>15. 実験報告(1)</li> <li>16. 実験報告(2)</li> <li>17. 実験計画法(3)</li> <li>18. 実験計画法(4)</li> <li>19. 心理学調査法(1)</li> <li>20. 心理学調査法(2)</li> <li>21. 心理学調査法(3)</li> <li>22. 調査(1)</li> <li>23. 調査(2)</li> <li>24. データ処理(2)</li> <li>25. データ処理(3)</li> <li>26. 統計処理法(3)</li> <li>27. 統計処理法(4)</li> <li>28. 統計処理法(5)</li> <li>29. 実験報告(3)</li> <li>30. 実験報告(4)</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験、調査のまとめや、レポートを作成する。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	<p>実習形式</p> <p>作成したレポートは松蔭manabaに提出</p>						
評価基準と評価方法	<p>実習への取り組みの態度(20%)、レポート(80%)</p> <p>松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。</p>						
履修上の注意	<p>毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。</p> <p>必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。</p>						
教科書	プリントを適宜配布する。						

参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821097
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習Ⅳ						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。						
授業の概要	都市生活演習Ⅳでは、実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生にとって身近な生活のテーマである「女性の視点からみたライフコースと家庭用品」に焦点をあてる。						
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 知識 量的調査および質的調査の技法を理解する。 能力 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。 態度 フィールドワークに積極的に参加し、問題解決の提案を積極的に行う						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既存の文献調査</li> <li>2. 質的調査の調査方法の確認</li> <li>3. 質的調査の検討Ⅰ</li> <li>4. 質的調査の検討Ⅱ</li> <li>5. 質的調査の検討Ⅲ</li> <li>6. ライフスタイルアンケート調査方法の確認</li> <li>7. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅰ</li> <li>8. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅱ</li> <li>9. 量的データ（アンケート調査）の分析Ⅲ</li> <li>10. フィールドワークの準備（ゲストスピーカ招聘）</li> <li>11. ファイルドワークⅠ</li> <li>12. インタビュー調査項目の作成Ⅰ</li> <li>13. インタビュー調査項目の作成Ⅱ</li> <li>14. インタビューの実施Ⅰ</li> <li>15. インタビューの実施Ⅱ</li> <li>16. インタビューの実施Ⅲ</li> <li>17. トランスクリプトの作成Ⅰ</li> <li>18. トランスクリプトの作成Ⅱ</li> <li>19. トランスクリプトの作成Ⅲ</li> <li>20. トランスクリプトの分析Ⅰ</li> <li>21. トランスクリプトの分析Ⅱ</li> <li>22. トランスクリプトの分析Ⅲ</li> <li>23. 調査報告書の作成1</li> <li>24. 調査報告書の作成2</li> <li>25. 調査報告書の作成3</li> <li>26. 学生の報告書の発表1</li> <li>27. 学生の報告書の発表2</li> <li>28. 学外での報告発表</li> <li>29. プレゼンテーション準備</li> <li>30. プレゼンテーション</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外学習：調査に関する資料を収集する。（学習時間各120分） フィールドワークに関しては学外で行う。（学習時間240分） トランスクリプトの作成は授業外に作成し、報告書や発表の準備に関しても授業外に行う。（学習時間それぞれ120分）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価 授業中の課題については、その次の授業で返還をし解説を加える。 レポートについては、到達目標にしたがい、知識、能力、態度に関してのルーブリック評価を行い、社会調査報告書としての完成度を評価する。報告書の作成途中にも、コメントを加えより社会調査の技法が習得できるように、フィードバックをする。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。 開講授業回数数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。						

教科書	プリントを配布
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習VI						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	①地域活性化につながるブランド・マーケティングの在り方を理解し、商品企画・開発を目指す。 ②社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。						
授業の概要	マーケティングにおける商品の企画・立案をするためには、調査は必要不可欠である。そのために、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書まで社会調査・市場調査の一連のプロセスを経験させ、理解することを目的とし、さらに企画書作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。 前期のテーマは、地域ブランドについて取り上げる。これまでは、神戸のイメージを表現した洋菓子開発や、他の地域と連携しながら洋菓子を開発するなど行った。さらに後期は、他県へ出向くことで、地域づくりや伝統文化、継承の方法について学ぶ。その中で、創造性を膨らませ、新しい商品づくりに着手する。 このように、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を発見し、最終的にはマーケティング担当者や営業担当者などの実務家に、得られた結果をプレゼンテーションできるように目指す。						
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、実践することができる ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる ③調査データを読み取り、商品につなげることができる						
授業計画	第1回. 演習で取り上げるテーマ発表 第2回. マーケティングを実践することの意義 第3回. 調査目的の明確化① 第4回. 調査目的の明確化② 第5回. 調査枠組みの検討① 第6回. 調査枠組みの検討② 第7回. 質的調査を行うための仮説設定 第8回. 量的調査を行うための仮説設定 第9回. 調査票の素案作りとその方法 第10回. 調査票の作成・完成とプレテスト 第11回. インタビュー調査実施（テーブルおこし） 第12回. アンケート調査の実施（学内・学外にて） 第13回. 調査収集とまとめ 第14回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第15回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第16回. アイデアだしの方法 第17回. グループディスカッション 第18回. 商品開発の企画・立案の方法① 第19回. 商品開発の企画・立案の方法② 第20回. 企画書の書き方 第21回. 本調査実施① 第22回. 本調査実施② 第23回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）① 第24回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）② 第25回. 中間プレゼンテーション① 第26回. 中間プレゼンテーション② 第27回. 企画書作成 第28回. プレゼン準備と最終確認 第29回. 最終プレゼン発表① 第30回. 最終プレゼン発表②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨いていく!!						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	企画力（アイデア出し）（20%）、グループディスカッション（20%）、レポート（30%）、プレゼン発表などによる総合評価（30%）						
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは実費負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要！ ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。						

教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書	随時紹介する（参考書リストは授業中に配布します）

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習VII						
担当教員	楠木 新					科目ナンバ-	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	経営学における4つの経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の中の「ヒト」に関する部分を重点的に取り上げる。どんなビジネスにおいても「ヒト」という経営資源は重要な位置づけを占めている。社会を見る一つの視点を養い、受講生が組織の中で働く際にも役立つことを狙いとする。						
授業の概要	受講生の興味や関心を聞き取りながら進めるが、基本的には、経営学における「人的資源管理」の基本的な理解を養うことを目的とする。また、社会でのトピックスになっている、働き方改革やワークライフバランス、女性活躍推進などの課題も取り上げる。						
到達目標	①経営学の「人的資源管理」の基本的な知識を習得する ②ワーク・ライフ・バランスなどの現在の課題を通して社会を見る目を養う ③自分が企業で働く際に、会社内部の仕組みや周囲の経営環境を把握できる力を持つ						
授業計画	第1回 導入説明。興味・関心のすりあわせ 第2回 経営理念と戦略 第3回 日本型人事制度・運用の特徴 第4回 コーポレート・ガバナンス 第5回 組織形態・組織間関係 第6回 モチベーションとリーダーシップ 第7回 日本型雇用システム1（「同期入社」の運用） 第8回 日本型雇用システム2（欧米の人事運用との対比） 第9回 日本型雇用システム3（「左遷」について） 第10回 組織行動における「人間モデル」 第11回 社員の評価、考課 第12回 社員の昇進昇格 第13回 年功序列と成果主義 第14回 賃金管理 第15回 社員に対する福利厚生 第16回 安全管理・労働時間管理 第17回 労使関係と労働組合 第18回 退職管理と定年制度 第19回 男女雇用機会均等法の沿革 第20回 女性活躍推進 第21回 高齢者雇用 第22回 非正規雇用（パート、アルバイト） 第23回 ダイバシティー 第24回 裁量労働・在宅勤務 第25回 ブラック企業問題 第26回 働き方改革1（副業禁止課題） 第27回 働き方改革2（同一労働同一賃金課題） 第28回 働き方改革3（残業問題と生産性） 第29回 ワーク・ライフ・バランス 第30回 人的資源管理のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から働き方・企業の経営についての関心を高めること。 各自の関心のあることをトピックスとして発表する課題を与えることがある。						
授業方法	講義と各自、グループでの発表。						
評価基準と評価方法	発表60%。授業への参加意識と参画態度40%。						
履修上の注意	具体的なテーマを見つけて、資料を検討して発表すること。 対話型の運営を行うので積極的な発言を期待する。						
教科書	・特に指定しません						

参考書	<ul style="list-style-type: none"><li>・「経験から学ぶ 経営学入門」(有斐閣ブックス)</li><li>・「経験から学ぶ 人的資源管理」(有斐閣ブックス)</li></ul>
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観する。						
授業の概要	現在、都市をめぐる環境は、インナーシティの問題に加え、商店街の衰退やオールドニュータウン化が進む一方で、都心のマンションラッシュなど都心回帰も始まっている。神戸をはじめとする都市部では、コレクティブハウジングなど新しい住まい方も生まれ、また、行政と協働で生活マナー向上の取り組みも始まっている。本講義では、都市の成り立ちも含めたハード面や、生活上のソフト面を解説し、まちに関心をもってもらえるような具体的な事例を取り上げながら、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。						
到達目標	(1) 近代～現在の都市生活を知り、自分にとっての「まち」を考察することができる。 (2) 高度情報化社会の中の「まち」を情報化、記述し、都市情報を発信することができる。 (3) 「まちづくり」に参画することができる。						
授業計画	第1回 まちを読み解く 第2回 京都・大阪・神戸の街 第3回 街と都会。街らしさと地方性 第4回 まちのでき方。大阪アメリカ村・南船場・堀江を例に 第5回 インターネット時代と都市空間 第6回 モバイル、コンビニ化される街 第7回 都市消費生活、消費者と匿名性、生活者と実名性 第8回 情報化、記号化、広告化される街 第9回 消費情報のなかの「都市」「都会」 第10回 「ファスト風土化」される街と商店街 第11回 街場のコミュニケーション 第12回 都市生活のなかの自己決定、自己責任 第13回 「自分の街」と居場所 第14回 コミュニティとしての都市、都会、街。ネットワーク 第15回 「わたし」の都市生活について書く						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	あらかじめ授業計画のテーマについて、自分なりの考察を深めておくこと（学習時間の目安：1時間）。街（例えば神戸）についての具体的な情報を収集し、それに応じて街を歩き、都市空間について理解すること（学習時間の目安：1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	毎回、レジュメや資料を配布します。 出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『「街的」ということ お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書 ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ ISBN-10: 4862381316、新潮文庫 ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京 その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版 ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコフス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306051188 『愛するということ「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナル・スティグレル著、新評論 ISBN-10: 4794807430 『愛と経済のロゴス カイエ・ソバージュⅢ』中沢新一著、講談社選書メチエ、ISBN-10: 4062582600						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。						
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。						
到達目標	代表的な被服材料の種類と特徴を説明することができる。 アパレル製品の消費性能と被服材料との関係を説明することができる。 身の回りのアパレル製品について、消費者の視点から考えを述べるすることができる。						
授業計画	第1回：はじめに 被服材料と消費性能 第2回：糸の種類と構造 1 糸の分類 第3回：糸の種類と構造 2 恒重式番手 第4回：糸の種類と構造 3 恒長式番手とより構造 第5回：布の組織と種類 1 織物 第6回：生地見本帳の作成 第7回：生地見本帳の説明 第8回：まとめと中間試験 第9回：布の組織と種類 2 編物 第10回：その他の被服材料 1 不織布、天然皮革 第11回：その他の被服材料 2 合成皮革、毛皮 第12回：その他の被服材料 3 レース、羽毛 第13回：まとめと期末試験 第14回：試験の復習と最終課題 第15回：学外研修、確認テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと（30分） 授業後学習：復習と課題（90分）						
授業方法	講義、VTR、演習、学外研修（神戸ファッション美術館※予定）						
評価基準と評価方法	平常点 40%、試験 60%、試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修の交通費等は自己負担。実施は授業時間外になることがある。 2. 履修の対象者 被服材料学実験を希望する場合は、被服材料学（講義）も履修しなければならない。 3. 前期開講の被服繊維学は、被服材料学の基礎となる内容なので、可能な限り受講することが望ましい。 4. 授業時に課題を出すことがあるので、積極的に取り組むこと						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学実験						
担当教員	吉田 恭子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	繊維、糸、布の科学的実験						
授業の概要	被服に使用される素材の種類や要求される性能は様々である。そこで、被服を構成する繊維の鑑別方法、糸・布の物理的性質を学ぶことは、これらを解明し、よりよい衣生活に生かしていく上で欠かせない。ここでは被服材料学で得た知識をもとに実験を行い、それらの方法を理解するとともに、得られた結果から被服材料の性能を評価する。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回：繊維の鑑別—顕微鏡による繊維の観察 第2回：繊維の鑑別—繊維の燃焼性と比重 第3回：繊維の鑑別—染色法、混用率測定 第4回：糸の太さ 第5回：糸の撚り 第6回：織物の基本構造 第7回：編物の基本構造 第8回：織物の水分率 第9回：布の吸水性 第10回：布の防しわ性と剛軟性 第11回：布の保温性、糸の引張強さ 第12回：布の通気性と引き裂き強さ 第13回：布のドレープ性と摩擦強さ 第14回：布のピリング 第15回：布の撥水性、まとめ ※実験項目によっては、ローテーションで実験を実施するものがあるので、班によって順序の異なることがある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読み、実験内容を把握しておくこと。 授業後学習：レポートを作成し、次回の授業時に提出すること。						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点（40-60%）、レポート（40-60%）						
履修上の注意	1. 履修の対象者：被服材料学（講義）を履修した学生を対象とする。 2. 実験科目であるので、遅刻、欠席をしないようにすること。 3. 白衣着用のこと。						
教科書	テキストとしてのプリントを配布する。						
参考書	『被服材料実験書』石川欣造 著、同文書院 ISBN 9784810311044						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまでを取り扱う。特に、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。到達目標は、被服の洗浄理論を説明することができること、素材に応じた適切な管理方法を選択することができること、洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の洗浄理論を説明することができる。</li> <li>・素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。</li> <li>・洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗濯用水 第3回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗剤 第4回：洗剤の成分と洗浄作用～界面活性剤水溶液の性質 第5回：洗剤の成分と洗浄作用～陰イオン、非イオン界面活性剤 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗剤の成分と洗浄作用～陽イオン、両性イオン界面活性剤 第8回：洗剤の成分と洗浄作用～配合剤の種類と洗浄作用 第9回：洗濯機、家庭洗濯 第10回：洗浄力の試験法と評価 第11回：機械作用の試験法と評価 第12回：漂白剤と増白、しみ抜き 第13回：衣服の保管、商業洗濯 第14回：取扱い絵表示、衣服の廃棄とリサイクル、期末試験 第15回 試験の復習と最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（30分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、課題）40%、試験60% 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	被服の洗濯・洗浄と染色に関する実験						
授業の概要	日常の被服管理において、洗濯は最も中心的な役割を果たす。本実験では、洗剤の主成分である界面活性剤の作用と洗濯の諸条件、色素の分解（漂白）や吸着（染色）、染色物の色の落ちにくさ（堅ろう度）に関する実験を行う。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：界面現象 第3回：界面活性剤の性質と作用 第4回：石けんの製造 第5回：洗浄試験、水洗濯、ドライクリーニング 第6回：精練・漂白・増白 第7回：しみぬき 第8回：洗濯に伴うトラブル 第9回：西洋茜による染色 第10回：酸性染料、直接染料による染色と染色条件の検討 第11回：反応染料による三原色配合染色 第12回：分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第13回：建て染め染料による染色 第14回：染色堅ろう度試験 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：テキストを読み、実験内容を把握しておく。（30分） 授業後：レポートを作成する。（90分）						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点 50%、レポート 50%						
履修上の注意	被服整理学も併せて履修すること。 遅刻、欠席をしないこと。 安全な靴を着用し、必要に応じて白衣着用のこと。						
教科書	テキスト（プリント）配布						
参考書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	被服の材料である綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。到達目標は、被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができること、繊維素材と着用目的を関連づけ、着用目的に合った繊維素材を選択することができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。</li> <li>・自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる。</li> <li>・着用目的に合った繊維素材を選択することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維～綿① 第3回：天然繊維 植物繊維～綿② 第4回：天然繊維 植物繊維～麻 第5回：天然繊維 動物繊維～羊毛 第6回：天然繊維 動物繊維～絹 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維 第9回：化学繊維 半合成繊維 第10回：化学繊維 合成繊維～ナイロン 第11回：化学繊維 合成繊維～ポリエステル 第12回：化学繊維 合成繊維～ビニロン、生分解性繊維、他 第13回：無機繊維～ガラス・炭素・金属繊維、高機能繊維 他 第14回：まとめと期末試験 第15回：試験の復習、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（90分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、ワークシート記入状況）：40%、試験：60% 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードコーディネート論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物のおいしさについての基礎的な知識を持ち、食べる人がこの食に対して何を求めているのかの要望を察知してコーディネートすることを考える！（フードスペシャリストの資格試験科目）						
授業の概要	<p>食に関する様々な場において複雑な状況を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することがフードコーディネートには求められている。その活動範囲は、家での食卓だけでなくレストランや食品を販売するスーパーやデパ地下、食に関する情報を発信するイベントやテレビ、広告などの企画、また知識や技術を伝達する食育、さらには店舗経営など極めて広い。</p> <p>食に関する場面において満足できる状態を演出するということは、「美味しいものを食べる」だけでなく、「美味しいものを美味しく食べる」あるいは「美味しいものを美味しく食べさせる」ことであり、食物自体の美味しさに加えて食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などが関わる総合的な場面を構築することである。</p> <p>そこで本講義では、世界無形文化遺産に登録された和食をはじめ、イタリアンや中国料理など世界各国の食生活や食文化を学び、昔の経験に基づいて築かれた伝統技術（例えば包丁の扱い方やテーブルマナー）や知識の理解を深め、食生活の楽しさを演出できる工夫を考える。</p> <p>さらに昨今大きな課題である食育、食の安全性について現状を理解するとともに、なぜこのような問題が生じたのかを考えていく。</p>						
到達目標	<p>①食には幅広い役割（体をつくる役割、コミュニケーションを育むための場、教育の場、楽しむ場、その他）があることを理解し、実践出来るようになる。</p> <p>②食教育で使用できる楽しい教材を考えることができる。</p> <p>③楽しい食空間を演出できるようコーディネート力をつける。</p>						
授業計画	<p>第1回 フードコーディネートの基本理念  第2回 食事の文化（日本の食事の歴史）  第3回 食事の文化（外国の食事）  第4回 食卓のコーディネート  第5回 食卓のサービスとマナー（日本料理のサービスとマナー）  第6回 食卓のサービスとマナー（中国料理・西洋料理・その他のサービスとマナー）  第7回 メニュープランニングの要件  第8回 食空間のコーディネート（理論）  第9回 食空間のコーディネート（実践）  第10回 フードサービスマネジメント（マネジメントの基本と起業する意義）  第11回 フードサービスマネジメント（投資計画の作成・収支計画の作成・売上）  第12回 食企画の実践コーディネート（食企画の流れ）  第13回 食企画の実践コーディネート（食企画に必要な基礎スキルと実践現場の現状）  第14回 食育の現状問題と課題  第15回 フードコーディネートの今後の課題とまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前：授業計画に従って、教科書の必要な箇所を読んでおくこと。また、食に関する資料を集めておくこと。</p> <p>授業後：復習をし、要点をまとめておくこと。</p>						
授業方法	<p>講義  場合によって実習などを取り入れることがある</p>						
評価基準と評価方法	レポートとプレゼンテーション（各1回ずつ）20%、小テスト20%（1回）、期末テスト60%						
履修上の注意	<p>①20分以上の遅刻は欠席扱いとする</p> <p>②学外実習を行うこともある。それに伴う交通費や入場料などは実費負担となる。</p>						
教科書	（社）日本フードスペシャリスト協会編「三訂 フードコーディネート論」ISBN:978-4-7679-0440-5						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードスペシャリスト論						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	フードスペシャリストの概念を理解し、フードスペシャリストとして活躍できる知識を修得する。						
授業の概要	フードスペシャリストが持つ専門性と役割について概説する。また、食物学、食品流通学、食品官能評価・鑑別などのフードスペシャリスト資格認定試験に出題される分野についてのまとめと試験対策も行う。						
到達目標	フードスペシャリストが持つ専門性について理解する。 フードスペシャリスト資格認定試験合格を目指し、試験対策ができる。						
授業計画	第1回：フードスペシャリストの概念 第2回：人類と食物 第3回：世界の食・日本の食 第4回：現代日本の食生活 第5回：食品産業の役割 第6回：食品の品質規格表示・食情報と消費者保護 第7回：食品の官能評価 第8回：食品の鑑別① 第9回：食品の鑑別② 第10回：食物学① 第11回：食物学② 第12回：食物学③ 第13回：食品流通 第14回：まとめ① 第15回：まとめ②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 授業後：授業内容に該当する分野の過去問を解く。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%						
履修上の注意	授業外における学習をしっかりと行うこと。						
教科書	四訂フードスペシャリスト論第4版 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2018年版フードスペシャリスト資格試験過去問題集 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	保育・看護学（実習を含む）						
担当教員	寺村 ゆかの					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの理解と家庭的保育						
授業の概要	<p>高齢化、少子化、核家族化が一般的となった現代、若い夫婦が健全な生活を営むのには多大の努力が必要である。出産や死亡は病院が普通となり、医学の進歩により家庭での看護の意義も変容してきた。育児では家庭が主体であることに変わりはないが、保育所や幼稚園も無視できない。本講義では、乳幼児の発育、家族の発達過程で生じるさまざまな健康の問題に対し、解決方法や家庭での看護のあり方、具体的な看護技術について学ぶ。さらに、より健康的なライフスタイルを獲得するためには何が必要かを考える。</p> <p>胎児期については主に身体の発達、出産後の乳幼児期については身体と心理（例えば、運動、認知、情緒など）の発達を解説する。併せて、成長後の社会性にとって極めて重要な乳幼児期の対人関係のあり方の意味を検討する。また、乳幼児が健康であることは何かについて、病気と看護、環境整備、予防接種等を取り上げて説明するとともに、そうした健康を保障するための事故防止や安全管理の重要性を説明する。さらに、保育をめぐる現状と課題（マルトリートメント、ひとり親家庭、産後うつや育児不安、待機児童、発達障害など）を議論する。また、演習ではグループに分かれ事例を検討し発表をおこなう。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達の基本を理解するとともに、子育てに必要な知識と態度を身につけることができる</li> <li>2. 現代社会における子育て支援の現状と課題を知り、それらについての自分の意見を表明することができる</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 授業のオリエンテーション／保育とは何か</p> <p>第2回 成長と発達</p> <p>第3回 妊娠期の女性（母親）の心身の変化と胎児の成長・発達</p> <p>第4回 新生児・乳児期の心身の成長・発達</p> <p>第5回 幼児期の心身の成長・発達</p> <p>第6回 乳幼児期の人間関係の発達</p> <p>第7回 乳幼児の健康①（子どもがかかりやすい病気）</p> <p>第8回 乳幼児の健康②（環境整備と予防接種）</p> <p>第9回 乳幼児の健康③（家庭での看護）</p> <p>第10回 乳幼児期に起こりやすい事故① 環境整備と事故予防</p> <p>第11回 乳幼児期に起こりやすい事故② 応急処置</p> <p>第12回 家庭的保育の現状と課題</p> <p>第13回 子どもと保護者への接し方・関わり方①</p> <p>第14回 子どもと保護者への接し方・関わり方②</p> <p>第15回 保育サービスの現状と課題とまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：毎回の講義の最後に、次回の講義内容に関係する「キーワード」を提示するので、それについて次回の授業までに自己学習しておく。授業ではその「キーワード」についての質問を適宜おこない、皆さんの意見等を求めるので答えられるように準備しておく。＜学習時間90分＞</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を復習し、それに関する新聞記事や文献等を読む。＜学習時間90分＞</p>						
授業方法	講義が中心であるが、事例検討を通じた演習（グループワーク）もおこなう。						
評価基準と評価方法	<p>平常点100%</p> <p>＜内訳＞ 毎回授業中の後半に作成するミニレポート（演習記録含む）70% 最終回に実施する小テスト30%</p> <p>ミニレポートについては、到達目標の1.2.についての到達度を確認する。例えば、授業の内容をどの程度理解したか、具体的に回答しているかという点を評価する。</p> <p>小テストについては、到達目標2についての到達度を確認する。</p> <p>＜課題に対するフィードバック＞</p> <p>ミニレポートの内容について、翌週の授業で紹介し解説する。</p>						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには単位認定をおこなわない。 携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止する。						
教科書	なし。 毎回レジュメを配布する。						
参考書	「保育の心理学」伊藤篤 編著（2017）ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07956-8						